

Syllabus

シラバス

2025(令和7)年度 入学生用



三重県立石薬師高等学校

1年	組	席	名前	

はじめに

シラバス (syllabus) とは、「授業の計画や内容の概略」のことをいいます。

この冊子には、石薬師高等学校で実施するすべての授業について、目標、内容の概略、使用予定の教科書、評価方法 (成績のつけ方) などが示されています。

石薬師高等学校では1年時は芸術科目をのぞいて全員が同じ科目を学習します。2年生になると、それぞれの将来の目標や進路にあわせて「スタンダード類型」「アカデミック類型」に分かれて学習し、選択できる授業も異なります。

自分の進路希望の実現に向けて学習目的、学習内容などをじっくり考え、学習する科目を選んでください。

< 語句説明 >

【単位】

「科目ごとの学習量」のことで、その授業が1週間に何時間あるかを示しています。週に1時間であれば、1単位と考えます。

【教科と科目】

例えば、「理科」という「**教科**」の中には、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」といった「**科目**」があります。

【履修^{りしゅう}】

ある科目を1年間きちんと受けるとその科目を「履修した」といいます。

必履修・・・全員が必ず履修しなければならない科目です。

選択・・・進路希望や興味・関心によって選ぶことができる科目です。

自分の進路を実現するためにどのような学習が必要かをよく考えて決めましょう。ただし、条件のある科目もあるので注意してください。

< シラバスの内容について >

授業目標・・・各科目を1年間学習する目標を示しています。

授業内容・・・各科目を1年間で学ぶ内容を項目別に示しています。

教材及び必要経費等・・・教科書名、副教材名、実習費用など、科目を学習していくのに必要なものが書かれています。教材等に関しては、原則自己負担です。価格については、変更の可能性もあります。また、教材についても出版の都合により変更をすることがあります。

評価・・・みなさんが学習した内容について何に基づいてどのように評価するのかを示しています。

< 選択科目の開講について >

選択科目によっては、選択人数、施設設備、開講条件により開講しない場合もあります。また、開講条件が満たされていても、講座編成、時間割の都合上、開講できないこともありますので、あらかじめ了解してください。

< 教科書・副教科書について >

2, 3年生で記載されている書名等は、現時点での予定であり変更することがあります。

	教科	科目	標準単位	1年次	2年次		3年次	
					スタンダード類型	アカデミック類型	スタンダード類型	アカデミック類型
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国語	現代の国語	2	2				
		言語文化	2	2				
		論理国語	4			2		2
		文学国語	4		3	4	2	2
		基礎国語Ⅰ(学)		1				
		基礎国語Ⅱ(学)			2			
		教養国語(学)						2
	地理歴史	地理総合	2	2				
		歴史総合	2		2	2		
		日本史探究	3				3	3
		世界史探究	3					2■
	公民	公共	2	2				2■
		政治・経済	2				2	2■
	数学	数学Ⅰ	3	3				
		数学Ⅱ	4		3	3		2
		数学A	2	2				
		数学B	2			2		
		基礎数学Ⅰ(学)		1				
		基礎数学Ⅱ(学)			1			
		教養数学(学)						3
	理科	科学と人間生活	2		2			
		物理基礎	2			2		2■
		物理	4					4■
		化学基礎	2	2				4■
		化学	4					4■
		生物基礎	2			2	2	4■
		生物	4					4■
	地学基礎	2					2■	
	保健体育	体育	7~8	2	2	2	3	3
		保健	2	1	1	1		
	芸術	音楽Ⅰ	2	2*				
		音楽Ⅱ	2		2◎	2◎		
		音楽Ⅲ	2				2◎	
		美術Ⅰ	2	2*				
		美術Ⅱ	2		2◎	2◎		
		美術Ⅲ	2				2◎	
		書道Ⅰ	2	2*				
		書道Ⅱ	2		2◎	2◎		
		書道Ⅲ	2				2◎	
		教養芸術(学)						2■
	外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	4				
		英語コミュニケーションⅡ	4		4	4		
		論理・表現Ⅰ	2				3	3
	家庭	家庭基礎	2			2		
		家庭総合	4		2		2	
情報	情報Ⅰ	2	2					
商業	課題研究	2~5				2■		
	情報処理	2~6			2	2■		
家庭	服飾手芸	2~4				2■		
情報	情報の表現と管理	2~6			2			
英語	総合英語Ⅱ	4~8					3	
科目の単位数の計				28	28	28	28	
特別活動 ホームルーム活動				35	35	35	35	
総合的な探究の時間				3~6	1	1	1	
週当たりの授業時数				30	30	30	30	

*.....科目群から、いずれか1科目を選択必履修

◎.....科目群から、いずれか1科目選択し、当該科目の「Ⅰ」を履修していることが必要

○.....科目群から、いずれか1科目選択し、当該科目の「Ⅱ」を履修していることが必要

■.....科目群から、いずれか1科目を選択

三重県立石薬師高等学校 CAN-DO リスト (英語: 3年分)

学年別目標	聞くこと	評価方法	話すこと (やり取り)	評価方法	話すこと (発表)	評価方法	読むこと	評価方法	書くこと	評価方法	数値指標
3年	目標 レベル	ある程度の速さで、興味・関心のある話題を聞いて理解できる。	質問に適切に答えることができ、また学習した表現を使って場面に応じて質問することができる。		自分の興味・関心のあるテーマを決めて、その説明や理由を含むまとまった文を発表することができる。		興味のある分野のある程度まとまった文章を読んで理解することができる。		自分の興味・関心のあることについて、その説明や理由を含むまとまった文章を書くことができる。		英検 3級 ～ 英検 4級
	LV20	□ ある程度の速さで、興味・関心のある話題を聞いて理解できる。(趣味、スポーツなど)	□ 質問に適切に答えることができ、また学習した表現を使って場面に応じて質問することができる。	パフォーマンス テスト 授業 グループワーク ペアワーク 振り返りシート	□ 自分の興味・関心のあるテーマを決めて、その説明や理由を含むまとまった文を発表することができる。	パフォーマンス テスト 授業 グループワーク ペアワーク 振り返りシート	□ 興味のある分野のある程度まとまった文章を読んで理解することができる。	パフォーマンス テスト 定期 小テスト	□ 自分の興味・関心のあるテーマを決めて、その説明や理由を含むまとまった文章を書くことができる。	パフォーマンス テスト 定期 小テスト	
	LV19	□ ある程度の速さで、日常生活の身近な話題に関する簡単な話を聞いて理解できる。(学校、クラブ活動、週末など)	□ 簡単な応答をそれぞれ3～4回ずつ程度することができる。		□ 自分の興味・関心のあるテーマを決めて、その説明を簡単な表現を使って発表することができる。		□ 日本語の注や説明がついた簡単な読み物を理解することができる。		□ 自分の興味・関心のあるテーマを決めて、その説明を簡単な表現を使って書くことができる。		
	LV18	□ ある程度の速さで、簡単なアナウンスを聞いて、理解できる。(集合場所、電車の到着時刻など)	□ 簡単な応答をそれぞれ2回ずつ程度することができる。		□ 与えられたテーマから選んだものについて、簡単な表現を使って説明や理由を言うことができる。		□ 学習した文法が使われた文を理解することができる。		□ 与えられたテーマから選んだものについて、簡単な表現を使って説明や理由を含む文を書くことができる。		
	LV17	□ ある程度の速さで、日常生活で使う表現を聞いて、理解できる。			□ 与えられたテーマから選んだものについて、簡単な表現を使って説明することができる。		□ 興味のある分野の簡単な文を読んで理解することができる。		□ 与えられたテーマから選んだものについて、簡単な表現を使って説明する文を書くことができる。		
	LV16	□ ある程度の速さで、よく使われる単語やフレーズが理解できる。			□ 与えられたテーマや1,2年次で学習した文章についてメモ見ながら発表することができる。		□ 興味のある分野の単語・表現を理解することができる。		□ 物ごとの「好き」「嫌い」とその理由を書くことができる。(食べ物、スポーツなど)		
LV15	□ 1,2年次で学習した単語・表現・文法が理解できている。		□ 1年次で学習したYes/Noや単語レベルでははっきりと答えることができ、また2年次で学習した様々な疑問文を使って相手に質問することができる。		□ 2年次で学習したジェスチャーやアイコンタクトを効果的に使って発表することができる。		□ 1,2年次で学習した単語・表現・文法が理解できている。				
2年	目標 レベル	ゆっくり話されれば身近な事に関する簡単な話や指示を理解することができる。	場面に応じた様々な疑問文を使って、相手に質問することができる。		思い出や行事について、身振り手振りを効果的に使いながら発表することができる。		様々な分野の簡単なまとまった文を理解することができる。		ある程度の単語・熟語・文法・時間や場所を含む長めの文を正しい語順で書くことができる。		英検 4級 ～ 英検 5級
	LV14	□ ゆっくり(または繰り返し)話されれば、興味・関心のある話題を聞いて理解できる。(趣味、スポーツなど)	□ 様々な疑問文を使って相手に質問することができる。	パフォーマンス テスト 授業 グループワーク ペアワーク 振り返りシート	□ 思い出や行事について、自分の経験や思いをメモ見ながらジェスチャーやアイコンタクトを効果的に使って発表することができる。	パフォーマンス テスト 授業 グループワーク ペアワーク 振り返りシート	□ 様々な分野の簡単なまとまった文を理解することができる。	パフォーマンス テスト 定期 小テスト	□ ある程度の単語・熟語・文法・時間や場所を含む文を書くことができる。	パフォーマンス テスト 定期 小テスト	
	LV13	□ ゆっくり(または繰り返し)話されれば、日常生活の身近な話題に関する簡単な話を聞いて理解できる。(学校、クラブ活動、週末など)	□ 疑問詞を使った疑問文に答えることができる。		□ 思い出や行事について、自分の経験や思いをメモ見ながら発表することができる。		□ イラストや写真のついた簡単なまとまった物語を理解することができる。		□ 文と文をつなげてより長い文章を正しい語順や単語で書くことができる。		
	LV12	□ ゆっくり(または繰り返し)話されれば、簡単なアナウンスを聞いて、理解できる。(集合場所、電車の到着時刻など)	□ 疑問詞を使った疑問文で相手に質問することができる。		□ 思い出や行事について、自分の経験や思いをメモ見ながら発表することができる。		□ 学習した簡単な文法が使われた文を理解することができる。		□ 文と文をつなぐ言葉を使って、より長い文章を書くことができる。		
	LV11	□ ゆっくり(または繰り返し)話されれば、簡単な日常生活に関する表現を聞いて、理解することができる。	□ 疑問詞を使わない疑問文で相手に質問することができる。		□ ジェスチャーやアイコンタクトを効果的に使って発表することができる。		□ 様々な分野の簡単な文を読んで理解することができる。		□ 短い文であれば、正しい英語の語順で書くことができる。		
	LV10	□ ゆっくり(または繰り返し)話されれば、よく使われる単語やフレーズが理解できる。	□ 1年次で日常生活の身近な話題について、Yes/Noや単語レベルでははっきりと答えることができる。		□ 1年次で学習した、3～5行程度の自己紹介の文章を話すことができる。		□ 様々な分野の単語・表現を理解することができる。		□ 状況に合わせて、時間や場所の表現を具体的に書くことができる。		
LV9	□ 1年次で学習した単語・表現・文法が理解できている。				□ 1年次で学習した単語・表現・文法が理解できている。		□ 1年次で学習した単語・表現・文法が理解できている。				
1年	目標 レベル	日常生活の単語やあいさつ、指示や文を聞いてその内容を理解することができる。	日常生活の身近な話題について、Yes/Noや単語レベルでははっきりと答えることができる。		3行程度の自己紹介が何も見ずにできる。		アルファベットや符号がわかり、身近なことを表す初歩的な語句や文を理解することができる。		アルファベット・符号・簡単な単語・表現・文法を適切に使って短い文を書くことができる。		英検 5級
	LV8	□ 簡単な文を聞いて、その内容を理解することができる。	□ 日常生活の身近な話題について、Yes/Noや単語レベルでははっきりと答えることができる。	パフォーマンス テスト 授業 グループワーク ペアワーク 振り返りシート	□ 名前・年齢・住んでいる場所・趣味など3行程度の自己紹介の文章を話すことができる。	パフォーマンス テスト 授業 グループワーク ペアワーク 振り返りシート	□ 日常生活の身近な事や初歩的な文を理解することができる。	パフォーマンス テスト 定期 小テスト	□ 簡単な単語・熟語・文法・時間や場所を含む短い文を書くことができる。	パフォーマンス テスト 定期 小テスト	
	LV7	□ 簡単な指示を聞いて、その意味を理解することができる。	□ 日常生活の身近な話題について、Yes/Noで答えることができる。		□ 名前・年齢・住んでいる場所・趣味など3行程度の自己紹介の文章をメモを見ながら話すことができる。		□ イラストや写真のついた初歩的な物語を理解することができる。		□ 名前・年齢・住んでいる場所・趣味など3行程度の自己紹介の文章を書くことができる。		
	LV6	□ 簡単な自己紹介を聞いて、その内容を理解することができる。	□ 日常生活の身近な話題について、Yes/Noで答えることができる。		□ 日常的なあいさつを聞いて、正しく答えることができる。		□ 学習した初歩的な文法が使われた文を理解することができる。		□ 短い文であれば、英語の語順で書くことができる。		
	LV5	□ 日常的なあいさつを理解することができる。	□ 日常生活の身近な数字を聞いて答えることができる。		□ 2～3行の文を流暢に発音することができる。		□ 日常生活の身近な表現を理解することができる。		□ 日常生活の身近な決まった表現を書くことができる。		
	LV4	□ 日常生活の身近な数字を聞き取ることができる。	□ 日付や曜日を聞き取ることができる。		□ 日常生活の身近な単語を聞いて、確認することができる。		□ 日常生活の身近な単語を理解することができる。		□ 状況に合わせて、時間や場所の表現を書くことができる。		
	LV3	□ 日付や曜日を聞き取ることができる。	□ アルファベットを聞いてどの文字か理解できる。		□ アルファベットを聞いてどの文字か確認することができる。		□ ピリオド、疑問符、コンマ、引用符、感嘆符を理解することができる。		□ 日常生活の身近な単語・熟語を書くことができる。		
	LV2	□ 日常生活の身近な単語を聞いて、その意味を理解することができる。					□ アルファベットの大文字・小文字を読むことができる。		□ アルファベットの大文字・小文字や符号を書くことができる。		
LV1	□ アルファベットを聞いてどの文字か理解できる。				□ 日常生活の身近な単語を発音することができる。		□ アルファベットを読むことができる。		□ ローマ字を使って自分の名前を書くことができる。		

目 次

第 1 学年

国語

現代の国語	p 1
言語文化	p 2
基礎国語 I	p 3

地理歴史

地理総合	p 4
------	-----

公民

公共	p 5
----	-----

数学

数学 I	p 6
数学 A	p 7
基礎数学 I	p 8

理科

化学基礎	p 9
------	-----

保健体育

体育	p 10
保健	p 11

芸術

音楽 I	p 12
美術 I	p 13
書道 I	p 14

外国語

英語コミュニケーション I	p 15
---------------	------

情報

情報 I	p 16
------	------

総合的な探究の時間	p 17
-----------	------

第 2 学年

国語

論理国語	p 18
文学国語 (スタ)	p 19
文学国語 (アカ)	p 20
基礎国語 II	p 21

地理歴史

歴史総合	p 22
------	------

数学

数学 II	p 23
数学 B	p 24
基礎数学 II	p 25

理科

科学と人間生活	p 26
物理基礎	p 27
生物基礎	p 28

保健体育

体育	p 29
保健	p 30

芸術

音楽 II	p 31
美術 II	p 32
書道 II	p 33

外国語

英語コミュニケーション II	p 34
----------------	------

家庭

家庭基礎	p 35
家庭総合	p 36

商業

情報処理	p 37
------	------

情報

情報の表現と管理	p 38
----------	------

総合的な探究の時間	p 39
-----------	------

第3学年

国語

論理国語	・ ・ ・ ・ ・	p 4 0
文学国語	・ ・ ・ ・ ・	p 4 1
教養国語	・ ・ ・ ・ ・	p 4 2

地理歴史

日本史探究	・ ・ ・ ・ ・	p 4 3
世界史探究	・ ・ ・ ・ ・	p 4 4

公民

政治・経済 (スタ)	・ ・	p 4 5
政治・経済 (アカ)	・ ・	p 4 6

数学

数学Ⅱ	・ ・ ・ ・ ・	p 4 7
教養数学 (スタ)	・ ・ ・	p 4 8
教養数学 (アカ)	・ ・ ・	p 4 9

理科

物理基礎	・ ・ ・ ・ ・	p 5 0
物理	・ ・ ・ ・ ・	p 5 1
化学	・ ・ ・ ・ ・	p 5 2
生物基礎	・ ・ ・ ・ ・	p 5 3
生物	・ ・ ・ ・ ・	p 5 4
地学基礎	・ ・ ・ ・ ・	p 5 5

保健体育

体育	・ ・ ・ ・ ・	p 5 6
----	-----------	-------

芸術

音楽Ⅲ	・ ・ ・ ・ ・	p 5 7
美術Ⅲ	・ ・ ・ ・ ・	p 5 8
書道Ⅲ	・ ・ ・ ・ ・	p 5 9
教養芸術	・ ・ ・ ・ ・	p 6 0

外国語

論理・表現Ⅰ	・ ・ ・ ・ ・	p 6 1
総合英語Ⅱ	・ ・ ・ ・ ・	p 6 2

家庭

家庭総合	・ ・ ・ ・ ・	p 6 3
服飾手芸	・ ・ ・ ・ ・	p 6 4

商業

課題研究	・ ・ ・ ・ ・	p 6 5
情報処理	・ ・ ・ ・ ・	p 6 6

総合的な探究の時間	・ ・ ・ ・	p 6 7
-----------	---------	-------

教科名	国語	科目名	現代の国語	必履修・選択履修 及び類型	必履修
単位数	2	履修学年	第1学年	授業形態	講義及び演習
授業目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
授業内容	<p>1学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的な文章や実用的な文章を読み、本文や資料を引用しながら、自分の意見や考えを論述する学習。 ・自分の考えについてスピーチをしたり、それを聞いて、同意したり、質問したり、論拠を示して反論したりする活動。 	<p>2学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的な文章や実用的な文章を読み、その内容や形式について、引用や要約などをしながら論述したり批評したりする学習。 ・報告や連絡、案内などのために、資料に基づいて必要な事柄を話したり、それらを聞いて、質問したり批評したりする活動。 	<p>3学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異なる形式で書かれた複数の文章や、図表等を伴う文章を読み、理解したことや解釈したことをまとめて発表したり、他の形式の文章に書き換えたりする学習。 ・読み手が必要とする情報に応じて手順書や紹介文などを書いたり、書式を踏まえて案内文や通知文などを書いたりする学習。 		
教材及び必要経費等	<p>教科書：「新編現代の国語」（大修館書店）</p> <p>副教材：「新編 現代の国語学習ノート」（大修館書店）</p>				
評価の観点・評価規準及び評価方法	観点	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けているかを、授業中の学習の様子、副教材の取り組み状況、感想文や作文などの各種創作活動、言語活動による発表、小テスト、定期考査等を通して総合的に評価する。			
	思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるかを、授業中の学習の様子、ノート・学習プリント・副教材の取り組み状況、感想文や作文などの各種創作活動、言語活動による発表、小テスト、定期考査等を通して総合的に評価する。			
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っているかを、授業中の学習の様子、ノート・学習プリント・副教材の取り組み状況、感想文や作文などの各種創作活動、言語活動による発表等を通して総合的に評価する。			

教科名	国語	科目名	言語文化	必履修・選択履修 及び類型	必履修
単位数	2	履修学年	第1学年	授業形態	講義及び演習
授業目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
授業内容	<p>1学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小説読解を通して、人物の心情を理解し、主題や表現技法について考えを深める学習。 ・異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。 	<p>2学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣いや古典文法の基本を習得する学習。 ・古文の音読と読解を通して、基本古語と古典常識の理解を深め、内容を把握し、主題について深く考察する学習。 ・感じたことや発見したことを短歌や俳句で表現する学習。 	<p>3学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢文訓読法の習得 ・漢文の音読と読解を通して、基本単語や句形の理解を深め、内容を把握し、主題について深く考察する学習。 ・古典から受け継がれてきた詩歌や芸能の題材、内容、表現の技法などについて調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする活動。 		
教材及び必要経費等	<p>教科書：「新編言語文化」（大修館書店）</p> <p>副教材：「書いて覚える 漢字練習ノート 二訂版」（京都書房）</p>				
評価の観点・評価規準及び評価方法	観点	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができているかを、授業中の学習の様子、副教材の取り組み状況、俳句や和歌などの各種創作活動、言語活動による発表、小テスト、定期考査等を通して総合的に評価する。			
	思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるかを、授業中の学習の様子、ノート・学習プリント・副教材の取り組み状況、俳句や和歌などの各種創作活動、言語活動による発表等、小テスト、定期考査等を通して総合的に評価する。			
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っているかを、授業中の学習の様子、ノート・学習プリント・副教材の取り組み状況、俳句や和歌などの各種創作活動、言語活動による発表等を通して総合的に評価する。			

教科名	国語	科目名	基礎国語 I	必修修・選択履修 及び類型	履修
単位数	1	履修学年	第 1 学年	授業形態	講義及び演習
授業目標	①中学校で学習した国語の内容を復習し、理解を確かなものにする。 ②国語を正確に理解し、適切に表現するための基礎的な力を身につける。 ③漢字を系統的に学習し、漢字検定合格を目指す。 ④社会生活を円滑に送るのに必要なコミュニケーション力を身につける。				
授業内容	1 学期 ・ひらがな、カタカナの正確な表記 ・漢字の成り立ちや書き順、部首の理解 ・漢字学習…漢字検定 10 級～6 級レベルの読み書き ・第 1 回漢字検定に挑戦 ・ローマ字の習得 ・基本語彙の習得 ・同音異義語、対義語、類義語の理解 ・慣用句、ことわざの理解 ・口語文法 ・国語辞典の使い方の習得 ・文章読解…段落や文章構造の理解、指示語の理解、内容の要約等	2 学期 ・漢字の部首や熟語の構成の理解 ・漢字学習…漢字検定 5 級レベルの読み書き ・第 2 回漢字検定に挑戦 ・重要語彙の習得 ・同音異義語、対義語、類義語の理解 ・慣用句、ことわざの理解 ・口語文法 ・文章読解…段落や文章構造の理解、表現技法の習得、主張の把握等 ・作文の書き方の理解…敬体・常体、原稿用紙の使い方、文章の構成等 ・美しい文字の練習 ・適切な話し言葉の習得 ・敬語の理解 ・国語常識の理解	3 学期 ・漢字の部首や熟語の構成の理解 ・漢字学習…漢字検定 4 級レベルの読み書き ・第 3 回漢字検定に挑戦 ・重要語彙の習得 ・同音異義語、対義語、類義語の理解 ・慣用句、ことわざの理解 ・擬声語、擬態語の理解 ・文章読解…段落や文章構造の理解、表現技法の習得、主張の把握等 ・作文 ・敬語の理解 ・適切な話し言葉の習得		
教材及び必要経費等	問題集を使用する。				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	漢字、語彙、文法、表現技法、国語常識等を正確に理解し、身につけることができているか。また、様々な文章を的確に読み取ることができているかを、小テスト、定期考査、授業中の活動等で評価する。			
	思考・判断・表現	目的に応じた適切な文章表現ができているか。また、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりしているかを、授業中の表現活動や発表、話し合い活動、感想文や作文等で評価する。			
	主体的に学習に取り組む態度	語彙の学習や話し合い、発表、表現活動等に意欲的に取り組んでいるか。授業中の学習の様子、学習教材やプリントの取り組み状況で評価する。			

教科名	地理歴史	科目名	地理総合	必履修・選択履修 及び類型	必履修
単位数	2	履修学年	第1学年	授業形態	講義形式
授業目標	<p>世界の人々の特色ある生活文化を、地理的環境との関わりを踏まえて理解します。地球環境問題や人口・食料問題など、人類が直面する地球的課題について理解し、持続可能な社会づくりに参画できるよう国際協力の姿勢を養います。自然災害の発生メカニズムを理解し、地域性を踏まえた実践的な防災行動をとることのできる知識を身につけます。</p>				
授業内容	<p>1学期 ・日常生活の中でみられる様々な地図や地理情報システムの役割や有用性について理解します。 ・世界の人々の特色ある生活文化について、地理的環境からの影響を踏まえて理解します。</p>		<p>2学期 ・世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題などを、共通性・関連性を踏まえて理解します。 ・地球的課題について、国際協力などにより、よりよい社会の実現のために追求・解決しようとする態度を養います。</p>		<p>3学期 ・わが国をはじめ世界でみられる自然災害について理解し、地域性を踏まえた防災に関する知識を身につけます。 ・自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野に、そこにみられる課題を主体的に追求・解決しようとする態度を養います。</p>
教材及び 必要経費 等	<p>教科書 「高等学校 新地理総合」(帝国書院) 「高等地図帳」(二宮書店) 副教材 「高等学校 新地理総合ノート」(帝国書院)</p>				
評価の 観点・ 評価規 準及び 評価方 法	観点	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題などについて、情報・データ等を活用し、諸問題を解決する方法を身に付けている。そして、考察した過程や結果を適切な方法で表現している。世界諸地域の諸問題を解決するために必要な基礎的知識を身に付けている。			
	思考・判断・表現	世界の人々の特色ある生活文化を地理的環境や民族性と関連づけてとらえ、その多様性や異文化を理解し尊重することについて考察している。			
	主体的に学習に 取り組む態度	世界の人々の特色ある生活文化および地球的課題に関心と問題意識を高めている。主体的・意欲的に課題を追究しようとしている。			
	<p>以上の項目について次の①～③を用いて評価します。</p> <p>①定期考査(中間考査・期末考査など) ②提出物(副教材・プリント・その他) ③授業態度</p>				

教科名	公民	科目名	公共	必履修・選択履修 及び類型	必履修
単位数	2	履修学年	第1学年	授業形態	講義形式
授業目標	<p>広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を習得できるようにする。</p> <p>さらに現代の諸問題を捉えて自ら考え、選択・判断する能力を培い、自立した人間として、よりよい社会の形成者として、持続可能な社会づくりの一員としての資質を養う。</p>				
授業内容	<p>1学期</p> <p>人間とは何か。幸福とは何か。社会とは何か。について考察し、よりよい社会のあり方を探究する。</p> <p>民主主義とは何か、その性質について理解する。</p>	<p>2学期</p> <p>憲法とは何かを理解するとともに、我が国の平和主義、安全保障、さらには政治機構について考察、探究する。</p> <p>そのうえで主権者と政治参加の意義を考察する。</p>	<p>3学期</p> <p>我が国と国際社会の経済の仕組み、財政の役割を包括的に理解し、環境、労働、社会保障について考察する。</p> <p>さらに持続可能な社会づくりについて探究する。</p>		
教材及び必要経費等	<p>教科書「詳述 公共」(実教出版)</p> <p>副教材「詳述 公共 マイノート」(実教出版)</p>				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	<p>現代の社会的・政治的・経済的動きに対して関心と問題意識を高めている。法や規範の意義、及び役割・多様な契約や消費者としての権利と責任、司法参加の意義について理解しようとしている。</p> <p>また、個人や社会の紛争を調停・解決することなどを通じて、権利や自由の保障の実現、社会秩序が形成されてゆくことを理解しようとしている。</p>			
	思考・判断・表現	<p>倫理・哲学・政治・経済の知識を踏まえ、現代社会の課題を資料の読解等を通じて多面的・多角的に考察しようとしている。また、主として法に関わる事項について、幸福や正義などに着目しつつ法、政治、経済などの側面を関連させて、解決が求められる主題に対して主体的に考察、表現しようとしている。</p>			
	主体的に学習に取り組む態度	<p>多様な社会問題のなかから、情報を自ら選択して活用し、事象を追究する技法・方法を身に付けている。さらに、考察した過程や結果を適切な方法で表現し、諸々の課題の解決に向けて、事実や資料を基に主体的に解決しようとしている。</p>			
以上の観点を踏まえ、定期考査の他、提出物や学習態度などを総合的に評価して成績をつけます。					

教科名	数学	科目名	数学 I	必履修・選択履修 及び類型	必履修
単位数	3	履修学年	第 1 学年	授業形態	講義形式
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 中学までの復習をし、実生活で必要な基礎の計算力を高める。 ● 高校数学の基礎を確立し、数学に対する興味・関心を高める。 				
授業内容	1 学期 数と式 <ul style="list-style-type: none"> ・ 数と集合 ・ 実数 ・ 集合 ・ 式の展開と因数分解 ・ 一次不等式 	2 学期 二次関数 <ul style="list-style-type: none"> ・ 二次関数とそのグラフ ・ 二次関数の最大・最小 ・ 二次方程式 ・ 二次不等式 	3 学期 図形と計量 <ul style="list-style-type: none"> ・ 鋭角の三角比 ・ 鈍角の三角比 ・ 正弦定理 余弦定理 ・ 図形の計量 データの分析 <ul style="list-style-type: none"> ・ データの散らばり ・ データの相関 		
教材及び 必要経費 等	教科書 「新 高校の数学 I」(数研出版) 副教材 「教科書学習ノート 数学 I」(数研出版) その他、計算力向上等を目的とするプリント教材を使用する。				
観点別 学習状況・ 評価規 準及び 評価方 法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	数学における基本的な概念、用語・記号などを理解し、知識を身につけることができる。 計算の技能を身につけることができる。			
	思考・判断・表現	数学的活動を通して数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えることができる。			
	主体的に学習に 取り組む態度	前向きな姿勢で授業や学習に取り組むことができる。			
	以上の項目について次の①～③を用いて評価します。 ①定期テスト(中間テスト・期末テスト・宿題テスト) ②提出物(副教材・プリント・その他) ③授業態度 [ただし、③の項目において、極端に意欲が低く単位修得の意志が見られない(課題を一度も出さない、授業中つねに寝ている、補習に参加しない、など)場合は、定期テストで点数が取れていても単位が不認定となることもあり得るので注意すること。]				

教科名	数学	科目名	数学A	必履修・選択履修 及び類型	履修
単位数	2	履修学年	第1学年	授業形態	講義形式
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 筋道を立てて考える習慣を身につけ、論理的な思考を身につける。 ● 基礎的な計算の定着を図る。 				
授業内容	1学期 場合の数と確率 <ul style="list-style-type: none"> ・ 数え上げの原則 ・ 順列 組合せ ・ 確率とその基本法則 ・ 独立な試行と確率 ・ 条件付き確率 	2学期 数学と人間の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 約数と倍数 ・ ユークリッドの互除法 ・ 2進法 ・ 点の位置の表し方 	3学期 図形の性質 <ul style="list-style-type: none"> ・ 三角形の性質 ・ 円の性質 ・ 作図 ・ 空間図形 		
教材及び 必要経費 等	教科書 「新 高校の数学A」(数研出版) 副教材 「教科書学習ノート 数学A」(数研出版) その他、必要に応じて授業プリントを使用する。				
観点別学習状況・ 評価規準及び 評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	数学における基本的な概念、用語・記号などを理解し、知識を身につけることができる。 計算の技能を身につけることができる。			
	思考・判断・表現	数学的活動を通して数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えることができる。			
	主体的に学習に 取り組む態度	前向きな姿勢で授業や学習に取り組むことができる。			
	以上の項目について次の①～③を用いて評価します。 ①定期テスト(中間テスト・期末テスト・宿題テスト) ②提出物(副教材・その他) ③授業態度 [ただし、③の項目において、極端に意欲が低く単位修得の意志が見られない(課題を一度も出さない、授業中つねに寝ている、補習に参加しない、など)場合は、定期テストで点数が取れていても単位が不認定となることもあり得るので注意すること。]				

教科名	数学	科目名	基礎数学 I	必履修・選択履修 及び類型	履修
単位数	1	履修学年	第 1 学年	授業形態	講義及び演習形式
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 中学校で学習した数学の内容を復習し、理解を確かなものにする。 ● 社会生活に必要な基礎の計算力と思考力を身につける。 ● 数学的な考え方を身につけることで、事象を論理的に考える力をつける。 				
授業内容	1 学期 ・正負の数のたし算, ひき算 ・正負の数のかけ算, わり算, 累乗の計算		2 学期 ・分数の性質と約分, 通分 ・分数のたし算, ひき算 ・分数のかけ算, わり算 ・計算の順序 ・文字を使った式, 文字式の表し方		3 学期 ・単項式と多項式の次数, 多項式の整理 ・多項式の加法, 減法 (1) ・多項式と数の乗法, 除法 ・多項式の加法, 減法 (2) ・単項式の乗法 ・単項式の除法 ・単項式と多項式の乗法, 除法
教材及び必要経費等	独自で作成したプリントを使用する。				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	数学における基本的な概念、用語・記号などを理解し、知識を身につけることができる。 計算の技能を身につけることができる。			
	思考・判断・表現	数学的活動を通して数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えることができる。			
	主体的に学習に取り組む態度	前向きな姿勢で授業や学習に取り組むことができる。			
	以上の項目について次の①～③を用いて評価します。 ①小テスト（毎回の授業で行う） ②提出物（プリント・その他） ③授業態度 [ただし、③の項目において、極端に意欲が低く単位修得の意志が見られない（課題を一度も出さない、授業中つねに寝ている、補習に参加しない、など）場合においては、小テストで点数が取れていても単位が不認定となることもあり得るので注意すること。]				

教科名	理科	科目名	化学基礎	必履修・選択履修 及び類型	必履修
単位数	2	履修学年	第1学年	授業形態	講義および実験実習
授業目標	1. 日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高める。 2. 物質を構成する成分の種類や、粒子の構造を学び、元素の周期表について理解する。 3. 粒子の結合の種類と物質の性質の間の関係について理解する。 4. 化学反応の仕組みを具体的な反応を通して理解する。 5. 身のまわりにある酸と塩基に目を向け、中和反応がどのように生活に関わっているのかを理解する。				
授業内容	1 学期 (1) 物質とその構成要素 ア. 物質の分離 イ. 物質を構成する元素 ウ. 原子の電子配置	2 学期 (2) 化学結合 ア. イオン イ. 物質の化学結合 ウ. 物質と化学反応式	3 学期 (3) 酸・塩基とその反応 ア. 酸と塩基 イ. 中和と塩 ウ. 酸化と還元 (4) 化学が拓く世界		
教材及び 必要経費 等	教科書：第一学習社「高等学校 新化学基礎」 問題集：使用する				
観点別学習状況・ 評価規準及び 評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	実験等を通して自然の事物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。(評価規準) 実験レポート・定期考査の知識、理解に関する問題などを用いて評価する。(評価方法)			
	思考・判断・表現	実験の方法を理解し、実験器具の正しい使い方を身に付けたか。自然界の事物現象について科学的に探究する方法を身に付けたか。自らの考えを的確に表現することができたか。(評価規準) 実験レポート・定期考査の観察、実験に関する問題・課題プリントへの取り組み・ノート作成状況などを用いて評価する。(評価方法)			
	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもって実験に参加しようとしているか。(評価規準) 実験レポートと夏期休暇などの自由課題などを用いて評価する。(評価方法)			

教科名	保健体育	科目名	体育	必履修・選択履修 及び類型	必履修
単位数	2	履修学年	第1学年	授業形態	実技形式・講義形式
授業目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。</p>				
授業内容	<p>1学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・体づくり運動 ・体育理論 	<p>2学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・球技 ・武道 ・上記から2種目選択 ・体づくり運動 ・体育理論 	<p>3学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・器械運動 ・陸上競技 ・ダンス ・上記から1種目選択 ・球技 ・体づくり運動 ・体育理論 		
教材及び 必要経費 等	<p>学校指定の体操服、体育館シューズ 教科書：現代高等保健体育(大修館) 副読本：保健体育ノート(大修館)</p>				
観点別学習状況・ 評価規準及び 評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	<p>運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。</p>			
	思考・判断・表現	<p>自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。</p>			
	主体的に学習に 取り組む態度	<p>運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。</p>			
	<p>上記の規準で、授業態度・課題の取組状況や内容、提出状況・発問に対する回答で評価する。</p>				

教科名	保健体育	科目名	保健	必履修・選択履修 及び類型	必履修
単位数	1	履修学年	第1学年	授業形態	講義形式
授業目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。				
授業内容	1 学期 1 単元 現代社会と健康 01 健康の考え方と成り立ち 02 私たちの健康のすがた 03 生活習慣病の予防と回復 04 がんの原因と予防 05 がんの治療と回復 06 運動と健康 07 食事と健康 08 休養・睡眠と健康	2 学期 09 喫煙と健康 10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康 12 精神疾患の特徴 13 精神疾患の予防 14 精神疾患からの回復 15 現代の感染症 16 感染症の予防 17 性感染症・エイズとその予防 18 健康に関する意志決定・行動選択 19 健康に関する環境づくり	3 学期 2 単元 安全な社会生活 01 事故の現状と発生要因 02 安全な社会の形成 03 交通における安全 04 応急手当の意義とその基本 05 日常的な応急手当 06 心肺蘇生法		
教材及び 必要経費 等	教科書：現代高等保健体育(大修館) 副読本：保健体育ノート(大修館)				
観点別学習状況・ 評価規準及び 評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。			
	思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養っている。			
	主体的に学習に 取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養おうとしている。			
	上記の規準で、授業態度・ノートやプリント、課題の取組状況や内容、提出状況・発問に対する回答・定期考査で評価する。				

教科名	芸術	科目名	音楽 I	必履修・選択履修 及び類型	選択必履修
単位数	2	履修学年	第 1 学年	授業形態	講義及び実習形式
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 音楽を愛好し、意欲的、主体的に音楽活動を行おうとする。 ● 音楽活動に必要な基礎的な知識と技術を習得する。 ● 声を出すこと、自分の歌声を聴かせることへの抵抗感をなくす。 ● さまざまなジャンルの音楽文化に触れ、幅広く興味・関心を持つことができる。 				
授業内容	1 学期 ・ 楽典 ・ 器楽 ・ 歌唱（校歌） ・ 鑑賞	2 学期 ・ 楽典 ・ 器楽（キーボード） ・ 歌唱 ・ 鑑賞	3 学期 ・ 楽典 ・ 器楽（ギター） ・ 歌唱 ・ 鑑賞 ・ 創作		
教材及び 必要経費 等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書「音楽 I Tutti+」（教育出版） ・ フラットファイル（学年会計費から一括購入し、初めの授業で配布） ・ プリント等 ・ キーボード（楽器レンタル代として約 1,700 円） 				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めようと努力している。 ・ 創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表そうとしている。 			
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚することができている。 ・ 音楽の要素の働きを感受しながら、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。 			
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価は、学習の取り組み状況、実技課題の進捗、学習プリント（楽典・鑑賞）、授業態度を総合的に判断して決定します。 				

教科名	芸術	科目名	美術 I	必履修・選択履修 及び類型	選択必履修
単位数	2	履修学年	第 1 学年	授業形態	講義及び実習形式
授業目標	<p>●制作や鑑賞など美術に親しむ活動を通して造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を通じて生活や社会の中の美術や美術の文化について理解を深めるとともに、芸術を愛する心を高める。</p> <p>●基礎的な制作技術を学びながら、主体的に自己表現する能力をみかく。</p>				
授業内容	1 学期 ・オリエンテーション ・素描 ・デッサン ・鑑賞	2 学期 ・絵画による平面表現 ・立体造形 ・鑑賞	3 学期 ・デザインによる平面表現 ・鑑賞		
教材及び 必要経費 等	<p>教科書：高校生の美術 1（日文） 芸術教科教材費・消耗品代として 2,000 円程度を徴収します。 ◆教材費より購入する物として 共同使用の物品…糊，パステル，デッサン用具（デッサン用竹ペン，インク，消し具等），デザイン用具（デザインガッシュのホワイト，定規，ガラス棒等），はさみ，カッティングマット，雑巾，水入れ など 個人使用の物品…紙類（模造紙，ボール紙，トレーシングペーパー等），粘土や木などの素材や造形用の道具 など ◇入学後個人購入していただく物として 絵画用具……筆，アクリラ（絵の具），ペーパーパレット，デッサン用鉛筆，デッサン用消しゴム デザイン用具…筆，パレット</p> <p>個人のものとなる用具は、入学後、セットになったものを業者より販売していただきます。（例年 6 千円程度）日時は後日連絡します。 ※個人で持っているものがあればそれでも結構です。不明な点は美術担当教員にお尋ねください。</p>				
観点別 学習状況・ 評価規 準及び 評価方 法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	・創造的な芸術表現をするために必要な技能を身につけ、また技能を磨くために努力している。			
	思考・判断・表現	・感性を働かせて芸術のよさや美しさを感じ取り、創造的に表現を工夫している。 ・基本的な制作技術を習得し、目的や用途に即して、創意工夫した表現ができる。			
	主体的に学習に取り組む態度	・芸術を愛好し、芸術文化を尊重するとともに、個性を生かして意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとしている。 ・授業後に行う振り返りに取り組んでいる。			
	<p>・学習活動に向かう姿勢（遅刻、忘れ物、など） ・学習活動への参加状況（制作への取組、道具の片付け、掃除、鑑賞の態度など） ・授業で提出する「作品」の評価 ・課題作品の制作時や授業終了後に提出する「振り返りシート」などの提出物の評価 ※実習科目なので授業を欠席せずに参加し、作品を制作、完成させることが大切です。</p>				

教科名	芸術	科目名	書道 I	必履修・選択履修 及び類型	選択必履修
単位数	2	履修学年	第 1 学年	授業形態	講義及び実習形式
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ●授業における表現と鑑賞の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育む。 ●書に親しむ活動を通して感性を高め、書の文化や伝統について理解を深める。 ●書写能力を育みながら、主体的に自己表現する能力を高める。 				
授業内容	1 学期 楷書の学習 行書の学習 ペン字の学習 鑑賞	2 学期 行書の学習 漢字仮名交じりの書 ペン字の学習 篆刻の学習	3 学期 仮名の学習 漢字仮名交じりの書 ペン字の学習 鑑賞		
教材及び 必要経費 等	「書道 I」(教育出版) 新版応用ペン習字 (教育図書) 実習用具(紙・墨・筆等) 3,500円				
観点別学習状況・ 評価規準及び 評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現や形式の多様性、作品・人物に対する正しい知識を持ち、その技能を習得している。 ・実生活に関わる書の在り方について、その価値を理解している。 			
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・古典や事象に対する知識を基にして、個性を活かしながら表現することができる。 ・古典の持つ価値や暮らしの中での位置付けを考えることができる。 			
	主体的に学習に 取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対し自ら改善点を見つけ、より良くしようと取り組むことができる。 ・自ら考え、また他者の考えを看取しながら協働して制作に取り組むことができる。 ・心豊かな生活や社会を創造するための態度を持つことができる。 			
	<ul style="list-style-type: none"> ●このため、評価は具体的には次のものを対象とする。 ・学習活動への参加状況(作成への取組、鑑賞の態度など、意欲的な態度で授業に参加することを大切にする)。 ・毎授業で提出する作品の評価。 				

教科名	外国語	科目名	英語コミュニケーションⅠ	必履修・選択履修 及び類型	必履修
単位数	4	履修学年	第1学年	授業形態	講義及び演習
授業目標	<p>●聞いたり読んだりしたことの概要や要点を目的に応じて捉える。</p> <p>●基本的な語句や文を使って情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやりとりを続けられる。</p> <p>●基本的な語句や文を使って論理性に注意して話したり書いたりして伝える又は伝え合うことなどができるようになる。</p>				
授業内容	<p>1 学期</p> <p>○オリエンテーション</p> <p>○アルファベットの確認</p> <p>○基本的な英文構造の理解</p> <p>○英単語テスト</p> <p>○ALT との言語活動</p>		<p>2 学期</p> <p>○基本的な英文構造の理解</p> <p>○教科書の学習</p> <p>○英単語テスト</p> <p>○ALT との言語活動</p>		<p>3 学期</p> <p>○基本的な英文構造の理解</p> <p>○教科書の学習</p> <p>○英単語テスト</p> <p>○ALT との言語活動</p>
教材及び 必要経費 等	<p>教科書 「COMET English Communication I」(教研出版)</p> <p>副教材 マナトレ(ベネッセ)、学校指定のもの、教科担当者が作成するプリント</p>				
観点別学習状況・ 評価規準及び 評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	英語の音声や語彙、表現、文法や言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話す事、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につける。小テスト、ペアワーク、提出物、インタビューテストや定期考査などで評価をする。			
	思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、概要や要点、詳細、話し手や聞き手の意図などを的確に理解し、これらを活用して適切に英語で表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。小テスト、ペアワーク、提出物、インタビューテストや定期考査などで評価をする。			
	主体的に学習に 取り組む態度	英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて、コミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けようとしているかを、授業内外での様々な言語活動を通して評価する。また授業等の言語活動を通して自分にはどのような力が足りないか、どのような学習がさらに必要かなど、英語の習得に継続して取り組もうとしているかを自己評価シートや授業及び課題の取り組み方などで評価をする。			

教科名	情報	科目名	情報 I	必履修・選択履修 及び類型	必履修
単位数	2	履修学年	第 1 学年	授業形態	講義及び実習形式
授業目標	1. 情報社会の特性や在り方を考え、情報社会に積極的に参画できる能力を身に付ける。 2. 情報とメディアの特徴、情報のデジタル化の仕組み、情報手段の基本的な仕組みなどについて理解する。 3. 情報通信ネットワークの特性を踏まえ、効果的なコミュニケーションの方法を理解する。				
授業内容	1 学期 ・情報の活用と表現 ・情報通信ネットワークとコミュニケーション ・ソフトウェア実習	2 学期 ・情報社会の課題と情報モラル ・さまざまなハードウェア、ソフトウェアを使用したメディア実習	3 学期 ・望ましい情報社会の構築 ・プレゼンテーション実習		
教材及び必要経費等	教科書 最新情報 I (実教出版) 副教材 最新情報 I 学習ノート (実教出版)				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	基礎的な技能を習得し、目的に応じて活用することができる。また、効果的な表現ができるよう工夫する姿勢が見られる。情報環境の仕組や役割、社会および生活に与える影響について理解できる。 発問に対する答えや発表の内容、実習への取り組み、ノートの作成状況、テストなどを用い評価する。			
	思考・判断・表現	情報モラルやルールを念頭においた情報の収集・処理・発信ができる。また、結果を踏まえて改善し工夫することができる。発問に対する答えや発表の内容、実習への取り組み、ノートの作成状況、テストなどを用い評価する。			
	主体的に学習に取り組む態度	身のまわりの情報環境に関心を持ち、主体的に関わり活用することができる。学習活動への参加の仕方や態度、実習への取り組み、ノートの作成状況、課題プリントへの取り組みなどを用い評価する。			

科目名	総合的な探究の時間			必履修・選択履修 及び類型	必履修
単位数	1	履修学年	第1学年	授業形態	講義及び演習 実習形式 (IT)
授業目標	<p>「さまざまな職業を知ることによって働くことの意味を理解する」という目標のもと、体験活動や仲間とのグループワークを通して、職業観や自己肯定感を養う。そのために従来の教科・科目の枠にとらわれずに、自分のあり方や生き方を見つめ、考え、実現するための活動をしていく。高校を卒業して社会へ出て行くときに身につけておかななくてはならない第一段階を学ぶ。人生をよりよく生きるために、自分自身を見つめること、他人を理解し思いやること、世の中のことを深く探究することをバランスよく養っていく。そして、自分や世の中の将来のことを考え、環境・福祉・ボランティア・人権・平和問題・社会問題などの視点も取り入れていく。また、自ら学び考える力や自己表現力を養い、豊かな人間性・社会性を培うこと、さらにそれを支える健康・体力の重要性の理解をめざす。</p>				
授業内容	<p>1学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高校生」になろう (中学との違いは何か。1年後にどんな自分になりたいか。目標の設定。) ・「働く」とは？ (働くのは誰のためか考える。社会人講演) ・人権学習 ・1学期の振り返り 	<p>2学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所・上級学校見学会 (自分の希望する職業や学校を知る。) ・事業所・上級学校見学会の事前学習 (社会人と学生の違い。マナートレーニング。見学先の決定。) ・事業所・上級学校見学会の事後学習 (気づきや学びを仲間と共有し発表する) ・人権学習 	<p>3学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の人生を描く (ゲーム形式で自分の人生を描き、他人の人生に共感する) ・進路分野別ガイダンス (自分の希望する職業についてガイダンスを受ける) ・適性検査 (客観的に自分を理解する) ・人権学習 ・1年間をふりかえって、 ・2年生になるにあたって 		
教材及び必要経費等	課題に応じ、問題集等を利用。				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	<p>自分の将来にかかわる様々な事象や課題について、基礎的・基本的な知識を身につけている。</p> <p>自分の将来にかかわる様々な事象や課題について、収集した情報を効果的に活用している。</p>			
	思考・判断・表現	<p>自分が向き合うべき課題について、深く考え適切に判断し効果的に表現している。</p>			
	主体的に学習に取り組む態度	<p>自分の将来にかかわる様々な事象や課題について、関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。</p>			
	作文・体験・レポートなどを総合的に判断する。				

教科名	国語	科目名	論理国語	必履修・選択履修 及び類型	履修 アカデミック類型
単位数	2	履修学年	第2学年	授業形態	講義及び演習
授業目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
授業内容	<p>1学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的な文章や実用的な文章を読み、その内容や形式について、批評したり討論したりする学習。 ・特定の資料について、様々な観点から概要などをまとめる活動。 		<p>2学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的な話題について書かれた論説文やその関連資料を読み、それらの内容を基に、自分の考えを論述したり討論したりする学習。 ・設定した題材について、分析した内容を報告文などにまとめる活動。 		<p>3学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学術的な学習の基礎に関する事柄について書かれた短い論文を読み、自分の考えを論述したり発表したりする学習。
教材及び必要経費等	<p>教科書：「新編 論理国語」（大修館書店）</p> <p>副教材：教科書準拠の学習ノート等を使用する。</p>				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けられているかを、授業中の学習の様子、ノート・学習プリント・副教材の取り組み状況、感想文や作文などの各種創作活動、言語活動による発表、小テスト、定期考査等を通して総合的に評価する。			
	思考・判断・表現	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるかを、授業中の学習の様子、感想文や作文などの各種創作活動、言語活動による発表、定期考査等で評価する。			
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に付けているかを、授業中の学習の様子、ノート・学習プリント・副教材の取り組み状況、感想文や作文などの各種創作活動、言語活動による発表等で評価する。			

教科名	国語	科目名	文学国語	必履修・選択履修 及び類型	履修 スタンダード類型
単位数	3	履修学年	第2学年	授業形態	講義及び演習
授業目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
授業内容	1 学期 ・ 作品の内容や形式について、書評を書いたり、自分の解釈や見解を基に議論したりする学習。 ・ 評論を参考にしたりして、小説や詩歌などを創作し、批評し合う活動。	2 学期 ・ 登場人物の心情や情景の描写を、文体や表現の技法等に注意して書き換え、その際に工夫したことなどを話し合ったり、文章にまとめたりする学習。	3 学期 ・ 古典を題材として小説を書くなど、翻案作品を創作する活動。 ・ 小説を、脚本や絵本などの他の形式の作品に書き換える活動。		
教材及び必要経費等	<p>教科書：「新編 文学国語」(大修館)</p> <p>副教材：教科書準拠の学習ノート、漢字練習ノート等を使用する。</p>				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるかを、授業中の学習の様子、ノート・学習プリント・副教材の取り組み状況、感想文や作文などの各種創作活動、言語活動による発表、小テスト、定期考査等を通して総合的に評価する。			
	思考・判断・表現	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるかを、授業中の学習の様子、ノート・学習プリント・副教材の取り組み状況、感想文や作文などの各種創作活動、言語活動による発表、定期考査等で評価する。			
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度が身についているかを、授業中の学習の様子、ノート・学習プリント・副教材の取り組み状況、感想文や作文などの各種創作活動、言語活動による発表等で評価する。			

教科名	国語	科目名	文学国語	必履修・選択履修 及び類型	履修 アカデミック類型
単位数	4	履修学年	第2学年	授業形態	講義及び演習
授業目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
授業内容	1学期 ・作品の内容や形式について、書評を書いたり、自分の解釈や見解を基に議論したりする学習。 ・評論を参考にしたりして、小説や詩歌などを創作し、批評し合う活動。	2学期 ・登場人物の心情や情景の描写を、文体や表現の技法等に注意して書き換え、その際に工夫したことなどを話し合ったり、文章にまとめたりする学習。	3学期 ・古典を題材として小説を書くなど、翻案作品を創作する活動。 ・小説を、脚本や絵本などの他の形式の作品に書き換える活動。		
教材及び必要経費等	<p>教科書：「新編 文学国語」(大修館)</p> <p>副教材：教科書準拠の学習ノート、漢字練習ノート等を使用する。</p>				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるかを、授業中の学習の様子、ノート・学習プリント・副教材の取り組み状況、感想文や作文などの各種創作活動、言語活動による発表、小テスト、定期考査等を通して総合的に評価する。			
	思考・判断・表現	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるかを、授業中の学習の様子、ノート・学習プリント・副教材の取り組み状況、感想文や作文などの各種創作活動、言語活動による発表、定期考査等で評価する。			
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度が身についているかを、授業中の学習の様子、ノート・学習プリント・副教材の取り組み状況、感想文や作文などの各種創作活動、言語活動による発表等で評価する。			

教科名	国語	科目名	基礎国語Ⅱ	必履修・選択履修 及び類型	履修 スタンダード類型
単位数	2	履修学年	第2学年	授業形態	講義および演習
授業目標	① 1学年で学習した基礎国語Ⅰ、国語総合の内容を復習し、理解を確かなものにする。 ② 国語を正しく理解し、適切に表現するための基礎的な力を身につける。 ③ 漢字を系統的に学習し、漢字検定合格を目指す。 ④ 社会生活を円滑に送るのに必要なコミュニケーション力を身につける。				
授業内容	1学期 ・漢字の成り立ちや書き順、部首、熟語の構成等の理解 ・漢字学習…漢字検定3級レベルの読み書き ・第1回漢字検定に挑戦 ・重要語彙の習得 ・同音異義語、対義語、類義語の理解 ・慣用句、ことわざの理解 ・擬声語、擬態語の理解 ・四字熟語の理解 ・抽象語の理解 ・作文	2学期 ・漢字の部首や熟語の構成等の理解 ・漢字学習…漢字検定準2級レベルの読み書き ・第2回漢字検定に挑戦 ・抽象語の理解 ・重要語彙の習得 ・古典の基礎知識の理解 ・適切な話し言葉の習得 ・敬語の理解 ・国語常識（現代・古典）の理解	3学期 ・漢字学習…漢字検定2級レベルの読み書き ・難読漢字の読み ・第3回漢字検定に挑戦 ・重要語彙の習得 ・抽象語の理解 ・作文 ・敬語の理解		
教材及び 必要経費 等	問題集を使用する。				
観点別 学習状況・ 評価規 準及び 評価方 法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	漢字、語彙、文法、表現技法、国語常識等を正確に理解し、身につけることができているか。また、様々な文章を的確に読み取ることができているかを、小テスト、定期考査、授業中の活動等で評価する。			
	思考・判断・表現	目的に応じた適切な文章表現ができているか。また、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりしているかを、授業中の表現活動や発表、話し合い活動、感想文や作文等で評価する。			
	主体的に学習に 取り組む態度	語彙の学習や話し合い、発表、表現活動等に意欲的に取り組んでいるか。授業中の学習の様子、学習教材やプリントの取り組み状況で評価する。			

教科名	地理歴史	科目名	歴史総合	必履修・選択履修 及び類型	必履修 すべての類型
単位数	2	履修学年	第2学年	授業形態	講義形式
授業目標	<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。そのために現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。また主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>				
授業内容	1学期 ・歴史の扉 歴史と私たち 歴史の特質と資料 ・近代化と私たち 近代化への問い 結び付く世界と日本の開国 国民国家と明治の変化 近代化と現代的な諸課題	2学期 ・国際秩序の変化や大衆化と私たち 国際秩序の変化や大衆化への問い 第一次世界大戦と大衆社会 経済危機と第二次世界大戦 国際秩序の変化 大衆化と現代的な諸課題	3学期 ・グローバル化と私たち グローバル化への問い 冷戦と世界経済 世界秩序の変容と日本 現代的な諸課題の形成と展望		
教材及び 必要経費 等	教科書：使用する 副教材：使用する				
観点別学習状況・ 評価規準及び 評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。			
	思考・判断・表現	地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。			
	主体的に学習に 取り組む態度	地理や歴史に関わる諸事象について、社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。			

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ	必履修・選択履修 及び類型	履修 すべての類型
単位数	3	履修学年	第2学年	授業形態	講義形式
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 数学Ⅰに続く内容を学習し、基礎的な知識や技能の習得を目指す。 ● 数学的な考え方を養い、応用力を身につける。 				
授業内容	1学期 いろいろな式 ・ 整式の乗法 除法 ・ 分数式の計算 ・ 二項定理 ・ 等式と不等式の証明 ・ 複素数と二次方程式	2学期 いろいろな式（続き） ・ 因数定理と高次方程式 ・ 図形と方程式 ・ 点と直線 ・ 円の方程式	3学期 指数関数・対数関数 ・ 指数の拡張 ・ 指数関数とそのグラフ ・ 対数 ・ 対数関数とそのグラフ		
教材及び 必要経費 等	教科書 使用する 副教材 使用する。 その他、計算力向上等を目的としたプリントを使用する。				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	数学における基本的な概念、用語・記号などを理解し、知識を身につけることができる。 計算の技能を身につけることができる。			
	思考・判断・表現	数学的活動を通して数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えることができる。			
	主体的に学習に取り組む態度	前向きな姿勢で授業や学習に取り組むことができる。			
	以上の項目について次の①～③を用いて評価します。 ①定期テスト（中間テスト・期末テスト・宿題テスト） ②提出物（副教材・プリント・その他） ③授業態度 [ただし、③の項目において、極端に意欲が低く単位修得の意志が見られない（課題を一度も出さない、授業中つねに寝ている、補習に参加しない、など）場合は、定期テストで点数が取れていても単位が不認定となることもあり得るので注意すること。]				

教科名	数学	科目名	数学B	必履修・選択履修 及び類型	履修 アカデミック類型
単位数	2	履修学年	第2学年	授業形態	講義形式
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 数学の新たな世界に触れ、その有用性を認識し、活用する態度を育む。 ● 事象を数学的にとらえ、考察し論理的に判断する姿勢を養う。 				
授業内容	1学期 数列とその和 ・ 数列 ・ 等差数列 ・ 等比数列	2学期 数列とその和（続き） ・ 和の記号 Σ ・ 階差数列	3学期 漸化式と数学的帰納法 ・ 漸化式と一般項 ・ 数学的帰納法		
教材及び 必要経費 等	教科書 使用する 副教材 使用する				
観点別学習状況・ 評価規準及び 評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	数学における基本的な概念、用語・記号などを理解し、知識を身につけることができる。 計算の技能を身につけることができる。			
	思考・判断・表現	数学的活動を通して数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えることができる。			
	主体的に学習に 取り組む態度	前向きな姿勢で授業や学習に取り組むことができる。			
	<p>以上の項目について次の1～3を用いて評価します。</p> <p>①定期テスト（中間テスト・期末テスト・宿題テスト） ②提出物（副教材・その他） ③授業態度</p> <p>[ただし、③の項目において、極端に意欲が低く単位修得の意志が見られない（課題を一度も出さない、授業中つねに寝ている、補習に参加しない、など）場合は、定期テストで点数が取れていても単位が不認定となることもあり得るので注意すること。]</p>				

教科名	数学	科目名	基礎数学Ⅱ	必履修・選択履修 及び類型	履修 スタンダード類型
単位数	1	履修学年	第2学年	授業形態	講義及び演習形式
授業目標	<p>●中学校で学習した数学の内容を復習し、理解を確かなものにする。</p> <p>●社会生活に必要な基礎の計算力と思考力を身につける。</p> <p>●数学的な考え方を身につけることで、事象を論理的に考える力をつける。</p>				
授業内容	1学期 式の展開 (1) 式の展開 (2) 因数分解 (1) 因数分解 (2)	2学期 式の値 平方根の性質 (1) 平方根の性質 (2) 根号を含む式の計算 (1) 根号を含む式の計算 (2)	3学期 1次方程式 (1) 1次方程式 (2) 連立方程式 (1) 連立方程式 (2) 2次方程式 (1) 2次方程式 (2)		
教材及び 必要経費 等	独自で作成したプリントを使用する。				
観点別 学習状況・ 評価規 準及び 評価方 法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	数学における基本的な概念、用語・記号などを理解し、知識を身につけることができる。 計算の技能を身につけることができる。			
	思考・判断・表現	数学的活動を通して数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えることができる。			
	主体的に学習に 取り組む態度	前向きな姿勢で授業や学習に取り組むことができる。			
	<p>以上の項目について次の①～③を用いて評価します。</p> <p>①小テスト（毎回の授業で行う）</p> <p>②提出物（プリント・その他）</p> <p>③授業態度</p> <p>[ただし、③の項目において、極端に意欲が低く単位修得の意志が見られない（課題を一度も出さない、授業中つねに寝ている、補習に参加しない、など）場合においては、小テストで点数が取れていても単位が不認定となることもあり得るので注意すること。]</p>				

教科名	理科	科目名	科学と人間生活	必履修・選択履修及び類型	必履修スタンダード類型
単位数	2	履修学年	第2学年	授業形態	講義及び実験
授業目標	1. 自然界のさまざまな事物や現象に対する理解を深め、日常生活をより豊かなものにしていく。 2. 科学的なものの見方を養い、科学についての興味・関心を高める。 3. 身近な衣料材料の性質や用途について理解を深める。 4. さまざまな微生物の存在と、生態系におけるはたらきを理解する。				
授業内容	1 学期 ・物質の科学 資源の再利用、繊維、食品と人間生活のかかわりについて理解する。 ・生命の科学 植物の生育、動物の行動、ヒトの視覚と光のかかわり及び微生物と人間生活のかかわりについて理解する。		2 学期 ・光や熱の科学 光を中心とした電磁波の性質、熱の性質、エネルギーの変換と保存及び有効利用について理解する。 ・宇宙や地球の科学 身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、太陽の放射エネルギーによる作用や地球内部のエネルギーによる変動と関連づけて理解する。		3 学期 ・これからの科学と人間生活 自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割についての学習を踏まえて、これからの科学と人間生活とのかかわり方について考察する。
教材及び必要経費等	・教科書：使用する ・問題集：使用する				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	実験等を通して自然の事物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。(評価規準) 実験レポート・定期考査の知識、理解に関する問題などを用いて評価する。(評価方法)			
	思考・判断・表現	実験の方法を理解し、実験器具の正しい使い方を身に付けたか。自然界の事物現象について科学的に探究する方法を身に付けたか。自らの考えを的確に表現することができたか。(評価規準) 実験レポート・定期考査の観察、実験に関する問題・課題プリントへの取り組み・ノートの作成状況などを用いて評価する。(評価方法)			
	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもって実験に参加しようとしているか。(評価規準) 実験レポートと夏期休暇などの自由課題などを用いて評価する。(評価方法)			

教科名	理科	科目名	物理基礎	必履修・選択履修 及び類型	必履修 アカデミック類型
単位数	2	履修学年	第2学年	授業形態	講義および実験実習
授業目標	<p>1. 物体の運動と物体にはたらく力との関係を理解し、あらゆる物体の運動が基本的な法則に基づいていることを理解する。また、仕事とエネルギーの関係を理解し、さまざまなエネルギーが相互に変換される仕組みについて理解する。</p> <p>2. 波の基本的な性質を学び、波動現象の法則性を理解する。身近な波動現象に関して理解する。</p> <p>3. 物理学と日常生活や社会とのかかわりを考えることができるようになる。</p>				
授業内容	1 学期		2 学期		3 学期
	(1) 運動とエネルギー ア. 物体の運動 イ. 力と運動の法則 ウ. 仕事と力学的エネルギー		(2) 熱 ア. 熱とエネルギー (3) 波動 ア. 波の性質 イ. 音波		(4) 電気 (5) 物理学が拓く世界
教材及び 必要経費 等	教科書：使用する 問題集：使用する				
観点別学習状況・ 評価規準及び 評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	<p>観察や実験を通して、さまざまな自然現象の背景には原理や法則があることを理解できたか。また、自然現象を定量的に考察するため、物理量（概念）を定義し、利用することが理解できたか。（評価規準）</p> <p>実験レポート・定期考査の知識、理解に関する問題などを用いて評価する。（評価方法）</p>			
	思考・判断・表現	<p>観察や実験の技能を修得できたか。それらを通して科学的に探究する方法を習得できたか。課題やレポートにおいて、的確に表現する方法を習得しているか。（評価規準）</p> <p>レポート・定期考査の観察、実験に関する問題・課題プリントへの取り組み・ノート作成状況などを用いて評価する。（評価方法）</p>			
	主体的に学習に取り組む態度	<p>自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもって実験に参加しようとしているか。（評価規準）</p> <p>実験レポートと夏期休暇などの自由課題などを用いて評価する。（評価方法）</p>			

教科名	理科	科目名	生物基礎	必履修・選択履修 及び類型	必履修 アカデミック類型
単位数	2	履修学年	第2学年	授業形態	講義及び実験
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生物に関する様々な基礎的知識を習得するとともに、日常生活や社会との関連性を理解する。 ・授業で学んだ知識を活用する力を養う。 ・観察や実験、グループ（またはペア）による対話を通して、遺伝や体内環境の維持、多様性と生態系についての探究を行う。 				
授業内容	1 学期 第1章 生物の特徴 第1節 生物にみられる多様性と共通性 1. 2. 生物の共通性の由来 3. 細胞構造の共通性と多様性 4. 真核細胞の構造 第2節 細胞とエネルギー 1. 代謝と酵素 2. エネルギーとATP 3. 光合成 4. 呼吸 5. ミトコンドリアと葉緑体の起源 第2章 遺伝子とその働き 第1節 遺伝子とDNA 1. 遺伝子・染色体・DNA 2. DNAの構造 3. DNAの複製と分配		2 学期 第2節 遺伝子の働き 1. タンパク質の構造と働き 2. 遺伝子の発現とタンパク質合成 3. 細胞と遺伝子の働き 第3章 体内環境と恒常性 第1節 生物の内部環境 1. 体液とその働き 2. 心臓の構造と体液の循環 3. 赤血球と血小板の働き 4. 5. 体液濃度の調節 第2節 体内環境を維持するしくみ 1. 体内環境の調節のしくみ 2. 自律神経系の働き 3. ホルモンによる体内環境の維持 4. 血糖濃度の調節 5. 体温の調節		3 学期 第3節 生体防御 1. 生体防御 2. 自然免疫 3. 獲得免疫 4. 免疫と医療 第4章 植生の多様性と生態系 第1節 植生と遷移 1. 植物と環境 2. さまざまな植生 3. 4. 植生の遷移
教材及び必要経費等	教科書：使用する 問題集：使用する				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	実験等を通して自然の事物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。（評価規準） 実験レポート・定期考査の知識、理解に関する問題などを用いて評価する。（評価方法）			
	思考・判断・表現	実験の方法を理解し、実験器具の正しい使い方を身に付けたか。自然界の事物現象について科学的に探究する方法を身に付けたか。自らの考えを的確に表現することができたか。（評価規準） 実験レポート・定期考査の観察、実験に関する問題・課題プリントへの取り組み・ノートの作成状況などを用いて評価する。（評価方法）			
	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもって実験に参加しようとしているか。（評価規準） 実験レポートと夏期休暇などの自由課題などを用いて評価する。（評価方法）			

教科名	保健体育	科目名	体育	必履修・選択履修 及び類型	必履修 すべての類型
単位数	2	履修学年	第2学年	授業形態	実技形式・講義形式
授業目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを旨とする。</p>				
授業内容	<p>1学期 ・オリエンテーション ・球技 武道 上記から1種目選択 ・体づくり運動 ・体育理論</p>		<p>2学期 ・球技 2種目選択 ・体づくり運動 ・体育理論</p>		<p>3学期 ・器械運動 陸上競技 ダンス 上記から1種目選択 ・球技 ・体づくり運動 ・体育理論</p>
教材及び 必要経費 等	<p>学校指定の体操服、体育館シューズ 教科書：現代高等保健体育(大修館) 副読本：保健体育ノート(大修館)</p>				
観点別学習状況・ 評価規準及び 評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	<p>運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。</p>			
	思考・判断・表現	<p>自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。</p>			
	主体的に学習に 取り組む態度	<p>運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。</p>			
	<p>上記の規準で、授業態度・課題の取組状況や内容、提出状況・発問に対する回答・で評価する。</p>				

教科名	保健体育	科目名	保健	必履修・選択履修 及び類型	必履修 すべての類型
単位数	1	履修学年	第2学年	授業形態	講義形式
授業目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。				
授業内容	1 学期 3 単元 生涯を通じる健康 01 ライフステージと健康 02 思春期と健康 03 性意識と性行動の選択 04 妊娠・出産と健康 05 避妊法と人工妊娠中絶	2 学期 06 健康生活と健康 07 中高年期と健康 08 働くことと健康 09 労働災害と健康 10 健康的な職業生活 4 単元 健康を支える環境づくり 01 大気汚染と健康 02 水質汚濁、土壌汚染と健康 03 環境と健康にかかわる対策 04 ごみの処理と下水道の整備	3 学期 05 食品の安全性 06 食品衛生にかかわる活動 07 保健サービスとその活用 08 医療サービスとその活用 09 医療品の制度とその活用 10 さまざまな保健活動や社会的対策 11 健康に関する環境づくりと社会参加		
教材及び必要経費等	教科書：現代高等保健体育(大修館) 副読本：保健体育ノート(大修館)				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。			
	思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養っている。			
	主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養おうとしている。			
	上記の規準で、授業態度・ノートやプリント、課題の取組状況や内容、提出状況・発問に対する回答・定期考査で評価する。				

教科名	芸術	科目名	音楽Ⅱ	必履修・選択履修 及び類型	選択履修 すべての類型
単位数	2	履修学年	第2学年	授業形態	講義及び実習形式
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ●音楽を愛好し、意欲的、主体的に音楽活動を行おうとする。 ●音楽活動に必要な知識と技術を得る。 ●声を出すこと、自分の歌声を聴かせることに対して自信を持つことができる。 ●さまざまなジャンルの音楽文化に触れ、幅広く興味・関心を高める。 				
授業内容	1 学期 ・楽典 ・器楽 ・歌唱 ・鑑賞	2 学期 ・楽典 ・器楽（キーボード） ・歌唱 ・鑑賞	3 学期 ・楽典 ・器楽（ギター） ・歌唱 ・鑑賞		
教材及び 必要経費 等	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 使用する ・フラットファイル（音楽Ⅰから引き続き使用） ・プリント等 ・キーボード（楽器レンタル代として約1,700円） 				
観点別学習状況・ 評価規準及び 評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。 			
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚する。 ・音楽の要素の働きを感受しながら、どのように表すかについて表現意図をもち、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴き、自らも創造することができている。 			
	主体的に学習に 取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に意欲的に取り組んでいる。 			
	<ul style="list-style-type: none"> ・評価は、学習の取り組み状況、実技課題の進度、学習プリント（楽典・鑑賞）、授業態度を総合的に判断して決定します。 				

教科名	芸術	科目名	美術Ⅱ	必履修・選択履修 及び類型	選択履修 すべての類型
単位数	2	履修学年	第2学年	授業形態	講義及び実習形式
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 制作や鑑賞など美術に親しむ活動を通して造形的な見方・考え方を働かせ、体験を通じて生活や社会の中の美術や美術の文化について理解を深めるとともに、芸術を愛する心を高める ● 制作技術を学びながら、主体的に自己表現する能力をみがく。 				
授業内容	1 学期 ・ 静物画 (絵画表現)	2 学期 ・ 基礎造形 (デザイン表現)	3 学期 ・ 基礎造形 (立体表現)		
教材及び 必要経費 等	教科書：使用する ・ 実習教材費として2,000円程必要です ・ 個人購入の画材は1年から引き続いて使用				
観点別学習状況・ 評価規準及び 評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	作品を幅広く理解し、見方を深めることができる。 表現を工夫して効果的な表現をしようとしている。			
	思考・判断・表現	基本的な制作技術を習得し、目的や用途に即して、創意工夫した表現ができる。			
	主体的に学習に 取り組む態度	さまざまな美術作品や課題に関心を持ち、積極的な態度で学習しようとしている。 授業後に行う振り返りに取り組んでいる。			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習活動に向かう姿勢(遅刻・忘れ物、など) ・ 学習活動への参加状況(制作への取組、道具の片付け、掃除、鑑賞の態度など) ・ 授業で提出する「作品」の評価 ・ 課題作品の制作時や授業終了後に提出する「振り返りシート」などの提出物の評価 ※実習科目なので授業を欠席せずに参加し、作品を制作、完成させることが大切です。				

教科名	芸術	科目名	書道Ⅱ	必履修・選択履修 及び類型	選択履修 すべての類型
単位数	2	履修学年	第2学年	授業形態	講義及び実習形式
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ●書道における表現と鑑賞の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育む。 ●書に親しむ活動を通して感性を高め、書の文化や伝統について理解を深める。 ●書写能力を育みながら、主体的に自己表現する能力を高める。 				
授業内容	1 学期 篆書の学習 隷書の学習 楷書の学習 ペン字の学習		2 学期 草書の学習 行書の学習 篆刻の学習 ペン字の学習		3 学期 仮名の学習 漢字仮名交じりの学習 行書の創作 ペン字の学習
教材及び 必要経費 等	教科書 使用する 副教材 使用する 実習用具(紙・墨・筆等) 3,000円				
観点別学習状況・ 評価規準及び 評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現や形式の多様性、作品・人物に対する正しい知識を持ち、その技能を習得している。 ・実生活に関わる書の在り方について、その価値を理解している。 			
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・古典や事象に対する知識を基にして、個性を活かしながら効果的な表現のための創意工夫をすることができる。 ・古典の持つ価値や暮らしの中での位置付けを考え、自らも創造することができる。 			
	主体的に学習に 取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対し自ら改善点を見つけ、より良くしようと取り組むことができる。 ・自ら考え、また他者の考えを看取しながら協働して制作に取り組むことができる。 ・心豊かな生活や社会を創造するため進んで行動することができる。 			
	<ul style="list-style-type: none"> ●このため、評価は具体的には次のものを対象とする。 ・学習活動への参加状況(作成への取組、鑑賞の態度など、意欲的な態度で授業に参加することを大切にする)。 ・毎授業で提出する「作品」の評価。 				

教科名	外国語	科目名	英語 コミュニケーションⅡ	必修修・選択履修 及び類型	履修 すべての類型
単位数	4	履修学年	第2学年	授業形態	講義及び演習
授業目標	<p>●聞いたり読んだりしたことの概要や要点を目的に応じて捉える</p> <p>●多様な語句や文を使って情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやりとりを続けられる。</p> <p>●多様な語句や文を使って論理性に注意して話したり書いたりして伝える又は伝え合うことなどができるようになる。</p>				
授業内容	1 学期 ○オリエンテーション ○教科書の内容理解 ○練習課題 ○教科書の範囲に基づいた文法知識の学習 ○英単語・熟語の習得 （ワークシート等を活用）		2 学期 ○教科書の内容理解 ○練習課題 ○教科書の範囲に基づいた文法知識の学習 ○英単語・熟語の習得 （ワークシート等を活用） ○音読や暗唱		3 学期 ○教科書の内容理解 ○練習課題 ○教科書の範囲に基づいた文法知識の学習 ○英単語・熟語の習得 （ワークシート等を活用） ○テキストの要約
教材及び必要経費等	教科書 使用する 副教材 使用する				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	英語の音声や語彙、表現、文法や言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話す事、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、上状況などに応じて適切に活用できる技能を身につける。小テスト、ペアワーク、提出物、インタビューテストや定期考査などで評価をする。			
	思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、概要や要点、詳細、話し手や聞き手の意図などを的確に理解し、これらを活用して適切に英語で表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。小テスト、ペアワーク、提出物、インタビューテストや定期考査などで評価をする。			
	主体的に学習に取り組む態度	英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて、コミュニケーションを図ろうとする態度を授業内外での様々な言語活動を通して評価する。また授業等の言語活動を通して自分にはどのような力が足りないか、どのような学習がさらに必要かなど、英語の習得に継続して取り組もうとしているかを自己評価シートや授業及び課題の取り組み方などで評価をする。			

教科名	家庭	科目名	家庭基礎	必履修・選択履修 及び類型	必履修 アカデミック類型
単位数	2	履修学年	第2学年	授業形態	講義および実習形式
授業目標	1. 家族や家庭生活のあり方、高齢者の生活、衣食住等について関心を高め、理解する。 2. 人の一生を生涯発達という視点でとらえ、男女がともにつくる家庭・社会について考察できる力をつける。 3. 衣食住等に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につける。				
授業内容	1 学期 自分らしい生き方と家族 ・人は生涯を通して発達し続ける ・青年期を生きる ・自立の達成をめざそう ・人生は意思決定を重ねてつくられる ・ライフスタイルを設計しよう ・家族について考える ・家族・家庭の機能を知る ・家族・家庭の法律を知る ・家庭と社会の関係について考える 消費生活を考えよう ・ひとりの消費者として選択する力 ・社会の一員としての消費者		2 学期 子どもとかかわる ・子どもの発達 ・子どもの生活 ・子どもの福祉 高齢期の生活と福祉 ・高齢期という時期 ・高齢期の生活について知る 健康で快適な衣生活をつくろう ・着ごちのよい被服 ・衣生活をつくる 被服実習		3 学期 生涯の健康を見通した食生活をつくろう ・なぜ食べるのか ・私たちは何を食べてきたか ・五大栄養素の働きと食品 ・献立と調理 住生活と住環境 生活をデザインしよう ・なりたい私になろう ・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動
教材及び必要経費等	教科書 使用する 副教材 使用する 実習（被服）（食物）材料費を徴収します				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	家族や家庭生活、衣生活や食生活、消費生活、住生活に関心を持ち、その充実・向上を目指して意欲的に授業に取り組んでいるかを、授業への参加態度・授業ノートやプリントへの取り組みなどによって評価する。また、定期テストで学習の定着と評価をする。			
	思考・判断・表現	自分や家族・家庭、地域の生活、社会にかかわる課題を見つけることができるか、また課題解決のため思考を深め、工夫したり創造したりして自分の考えをまとめ、判断することができるかを発問に対する回答や発表の内容、ノートやプリントへの取り組み、定期考査などより評価する。			
	主体的に学習に取り組む態度	調理実習や被服実習について実習方法を理解し、手順よく、正確に取り組むことができたか、基礎的・基本的技術を身に付けているかを作品の完成状況などで評価する。			

教科名	家庭	科目名	家庭総合	必履修・選択履修 及び類型	必履修 スタンダード類型
単位数	2	履修学年	第2学年	授業形態	講義及び実習形式
授業目標	1. 家族や家庭生活のあり方、高齢者の生活、衣食住等について関心を高め、理解する。 2. 人の一生を生涯発達という視点でとらえ、男女がともにつくる家庭・社会について考察できる力をつける。 3. 衣食住等に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につける。				
授業内容	1 学期 自分らしい生き方と家族 ・人は生涯を通して発達し続ける ・青年期を生きる ・自立の達成をめざそう ・人生は意思決定を重ねてつくられる ・ライフスタイルを設計しよう ・家族について考える ・家族・家庭の機能を知る ・家族・家庭の法律を知る ・家庭と社会の関係について考える 消費生活を考えよう ・ひとりの消費者として選択する力 ・社会の一員としての消費者	2 学期 子どもとかかわる ・子どもの発達 ・子どもの生活 ・子どもの福祉 高齢期の生活と福祉 ・高齢期という時期 ・高齢期の生活について知る 健康で快適な衣生活をつくろう ・着ごちのよい被服 ・衣生活をつくる 被服実習	3 学期 生涯の健康を見通した食生活をつくろう ・なぜ食べるのか ・私たちは何を食べてきたか ・五大栄養素の働きと食品 ・献立と調理 生活をデザインしよう ・なりたい私になろう ・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動		
教材及び必要経費等	教科書 使用する 副教材 使用する 実習（被服）（食物）材料費を徴収します				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	人間の発達と生活の営みとのかかわり、家庭・家族の意義、家庭生活の各分野に関する基礎的・基本的知識を断片的にではなく実際の生活の充実向上に役立つように総合的に理解しているか。また、被服・食物分野における基礎的・基本的技術を学び生活の中で総合的に理解し活用する姿勢を培う。発問に対する回答や発表の内容、ノートやプリントへの取り組み、定期考査などより評価する。			
	思考・判断・表現	衣食住の生活、家族・家庭、消費生活などの家庭や地域の生活について見直して課題をみつけその解決を目指し学んだ知識・技能を活用する。発問に対する回答や発表の内容、ノートやプリントへの取り組み、定期考査などより評価する。			
	主体的に学習に取り組む態度	自分や家族・家庭、地域の生活、社会にかかわる課題を見つけることができるか、また課題解決のため思考を深め、工夫したり創造したりして自分の考えをまとめ、判断することができるかを発問に対する回答や発表の内容、ノートやプリントへの取り組み、定期考査などより評価する。			

教科名	商業	科目名	情報処理	必履修・選択履修 及び類型	履修 スタンダード類型
単位数	2	履修学年	第2学年	授業形態	講義及び実習形式
授業目標	①文書がビジネス活動の中で果たしている役割を理解し、ワープロソフト利用に関する知識と技術を習得して、基本文書や応用文書を作成する。 ②表計算ソフトを活用するための基礎的・基本的な知識や技術を身に付けていく。 ③その他、コンピュータソフトを活用するための基礎的・基本的な知識や技術を身に付けていく。				
授業内容	1 学期 タイピング練習 ビジネス文書の作成 (基本文書の作成) 表計算ソフトの基本的な 操作方法	2 学期 タイピング練習 ビジネス文書の作成 (発信文書の作成) 表計算ソフトの応用的な 作成方法	3 学期 その他、コンピュータソフト の基本的操作練習 ビジネス情報の処理と分析		
教材及び 必要経費 等	教科書 使用する 副教材・プリントなどを使用する				
観点別学習状況・ 評価規準及び 評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ワープロの応用的な操作方法やタッチメソッドについて理解している。 ・ビジネスにおける基本的な文書作成方法を理解している。 ・学習したコンピュータソフトの操作方法を理解している。 			
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・社外文書、社交文書、取引文書、社内文書の作成方法を理解し、文書の作成に役立てることができる。 ・書式設定や均等割付などの特殊技法を状況に応じて適切に使用することができる。 			
	主体的に学習に 取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ワープロの編集機能や効果的な文書の作成方法について、興味を持って実際に操作し、文字の入力、漢字変換、特殊な入力方法を習得しようとしている。 ・ワープロソフトを利用して、目的に応じた適切な文書を積極的に作成しようとする。 			

教科名	情報	科目名	情報の表現と管理	必履修・選択履修及び類型	履修スタンダード類型
単位数	2	履修学年	第2学年	授業形態	講義及び実習形式
授業目標	<p>情報技術を活用して問題解決を行う学習活動を通して、情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用し、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与するための資質・能力を身につける。</p> <p>文書がビジネス活動の中で果たしている役割を理解し、表現力を伸ばすとともに、情報を適切に表現する能力と態度を身につける。</p> <p>情報の表現に向けて、情報システムや多様なデータを適切かつ効果的に活用する力を身につける。</p>				
授業内容	<p>1 学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文書による表現 メディアの種類と特性について理解する。 ・ タイピング練習 ・ ビジネス文書の作成 		<p>2 学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図解による表現 問題点の整理や解決策を考える実習 ・ タイピング練習 ・ ビジネス文書の作成 		<p>3 学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ データによる表現 自ら課題を発見する実習 コンピュータによる情報の管理と活用
教材及び必要経費等	教科書 情報の表現と管理（実教出版社）を使用する 副教材、プリントなどを使用する				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	基礎的・基本的な知識を身に付け、意義や役割を理解しているか。発問に対する答えや発表の内容、実習への取組、課題への取組などを用い評価する。			
	思考・判断・表現	情報の表現の方法を理解し、課題の解決を目指し自ら思考を深め、創意工夫する能力を身につけているか。発問に対する答えや実習への取組、課題への取組などを用い評価する。			
	主体的に学習に取り組む態度	情報の表現方法の特性を理解し、課題解決に関心をもち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組んでいるか。学習活動への参加の仕方や態度、実習への取組、課題への取組などを用い評価する。			

科目名	総合的な探究の時間			必修・選択履修 及び類型	必修
単位数	1	履修学年	第2学年	授業形態	講義及び演習 実習形式 (IT)
授業目標	従来の教科・科目の枠にとらわれずに、広い視野をもって自分たちのあり方・生き方を見つめ、考え、実現していくことをねらいとする。高校卒業後、本格的に社会へ出て行くにあたり、これからの生き方を真剣に見つめ、考える。「キャリアガイダンス」を通じて、自分の将来設計のための活動を行う。人生をよりよく生きるために、自分自身を見つめること、他人を理解し思いやること、世の中のことを深く探究することをバランスよく養っていく。そして、自分や世の中の将来のことを考え、環境・福祉・ボランティア・人権・社会問題などの視点も取り入れていく。また、自ら学び考える力や自己表現力を養い、豊かな人間性・社会性を培うこと、さらにそれを支える健康・体力の重要性の理解をめざす。				
授業内容	1学期 ・なかまづくり ・高校生活の充実に向けて (1年の評価と2年の目標) ・ソーシャルスキルトレーニング ・就職面接の模擬体験 ・インターンシップ希望調査 ・インターンシップに向けて (実習企業・施設研究・マナー・心得) ・インターンシップ	2学期 ・インターンシップを振り返って ・進路について考える (ライフプランを考える) ・人権学習 ・平和学習 ・卒業生による講演 ・職種、業種について ・ソーシャルスキルトレーニング	3学期 ・社会をみつめる (時事問題学習) ・面接練習 ・作文練習 ・就職試験対策 ・1年間をふりかえって、 3年生になるにあたって ・ソーシャルスキルトレーニング		
教材及び 必要経費 等	教科書は使用しません。 課題に応じ、問題集等を利用。				
観点別学習状況・ 評価規準及び 評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	自分の将来にかかわる様々な事象や課題について、基礎的・基本的な知識を身につけている。 自分の将来にかかわる様々な事象や課題について、収集した情報を効果的に活用している。			
	思考・判断・表現	自分が向き合うべき課題について、深く考え適切に判断し効果的に表現している。			
	主体的に学習に 取り組む態度	自分の将来にかかわる様々な事象や課題について、関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。			
	作文・体験・レポートなどを総合的に判断する。				

教科名	国語	科目名	論理国語	必履修・選択履修 及び類型	履修 アカデミック類型
単位数	2	履修学年	第3学年	授業形態	講義及び演習
授業目標	<p>2学年での学習を踏まえ、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
授業内容	<p>1学期</p> <p>・設定した題材について多様な資料を集め、調べたことを整理して、様々な観点から自分の意見や考えを論述する学習。</p>		<p>2学期</p> <p>・同じ事柄について異なる論点をもつ複数の文章を読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。</p>		<p>3学期</p> <p>・関心をもった事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表したり報告書や短い論文などにまとめたりする学習。</p>
教材及び必要経費等	<p>教科書：「新編 論理国語」（大修館書店）</p> <p>副教材：教科書準拠の学習ノート等を使用する。</p>				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況		評価規準及び評価方法		
	知識・技能		<p>実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けられているかを、授業中の学習の様子、ノート・学習プリント・副教材の取り組み状況、感想文や作文などの各種創作活動、言語活動による発表、小テスト、定期考査等を通して総合的に評価する。</p>		
	思考・判断・表現		<p>論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるかを、授業中の学習の様子、感想文や作文などの各種創作活動、言語活動による発表、定期考査等で評価する。</p>		
	主体的に学習に取り組む態度		<p>言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に付けているかを、授業中の学習の様子、ノート・学習プリント・副教材の取り組み状況、感想文や作文などの各種創作活動、言語活動による発表等で評価する。</p>		

教科名	国語	科目名	文学国語	必履修・選択履修 及び類型	履修 すべての類型
単位数	2	履修学年	第3学年	授業形態	講義及び演習
授業目標	<p>2学年での学習を踏まえ、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
授業内容	<p>1学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで同じ題材を書き継いで一つの作品をつくるなど、共同で作品制作に取り組む学習。 ・演劇や映画の作品と基になった作品とを比較して、批評文や紹介文などをまとめる活動。 	<p>2学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品に関連のある事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表したり短い論文などにまとめたりする学習。 	<p>3学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマを立てて詩文を集め、アンソロジーを作成して発表し合い、互いに批評する活動。 		
教材及び必要経費等	<p>教科書：「新編 文学国語」（大修館）</p> <p>副教材：教科書準拠の学習ノート、漢字練習ノート等を使用する。</p>				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができているかを、授業中の学習の様子、ノート・学習プリント・副教材の取り組み状況、感想文や作文などの各種創作活動、言語活動による発表、小テスト、定期考査等を通して総合的に評価する。			
	思考・判断・表現	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるかを、授業中の学習の様子、ノート・学習プリント・副教材の取り組み状況、感想文や作文などの各種創作活動、言語活動による発表、定期考査等で評価する。			
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度が身についているかを、授業中の学習の様子、ノート・学習プリント・副教材の取り組み状況、感想文や作文などの各種創作活動、言語活動による発表等で評価する。			

教科名	国語	科目名	教養国語	必修修・選択履修 及び類型	履修 すべての類型
単位数	2	履修学年	第3学年	授業形態	講義及び演習
授業目標	① 2年次の「基礎国語Ⅱ」、「文学国語」の主に知識・技能に関する内容を復習し、理解と習得を確かなものにする。 ② 国語を正しく理解し、様々な場面において国語を適切に使うことのできる力を身につける。 ③ 漢字や言葉に対する関心を高め、社会生活に不可欠な国語教養を身につける。				
授業内容	1 学期 ・ 漢字の学習…書き順、部首、音訓、送り仮名、熟語の構成等 ・ 漢字検定5級～2級の読み書き ・ 第1回漢字検定に挑戦 ・ 抽象語の理解 ・ 重要語彙の習得 ・ 慣用句、ことわざの理解 ・ 三字熟語、四字熟語の理解 ・ 擬声語、擬態語の理解 ・ 同音異義語、対義語、類義語の理解 ・ 古典の基礎知識の習得 ・ 口語文法…品詞の識別、格助詞の用法、呼応の副詞など ・ 主語述語の呼応の理解 ・ 故事成語の理解	2 学期 ・ 漢字の学習…書き順、部首、音訓、送り仮名、熟語の構成等 ・ 漢字検定3～2級の読み書き ・ 難読漢字の読み ・ 第2回漢字検定に挑戦 ・ 重要語彙の習得 ・ 原稿用紙の使い方の習得 ・ 敬語の理解 ・ 三字熟語、四字熟語の理解 ・ 句読点の使い方の習得 ・ 文体の相違の理解 ・ 文章読解 ・ 強調表現の習得 ・ 比喩表現の習得	3 学期 ・ 漢字の学習…書き順、部首、音訓、送り仮名、熟語の構成等 ・ 漢字検定3～2級の読み書き ・ 難読漢字の読み ・ 誤字訂正 ・ 名数の理解 ・ 第3回漢字検定に挑戦 ・ 重要語彙の習得 ・ 金言、ことわざの理解 ・ 手紙の書き方の習得 ・ 様々な創作活動…短歌、俳句、詩、散文等 ・ 文学史の理解 ・ 名作の冒頭文の識別 ・ 敬語の理解 ・ 正しい電話対応の習得		
教材及び必要経費等	問題集を使用する。				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	漢字、語彙、文法、表現技法、国語常識等を正確に理解し、身につけることができているか。また、様々な文章を的確に読み取ることができているかを、小テストや定期考査、授業中の活動等で評価する。			
	思考・判断・表現	実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしているかを、授業中の表現活動や発表等で評価する。			
	主体的に学習に取り組む態度	語彙の学習や発表、表現活動等に意欲的に取り組んでいるかを、授業中の学習の様子、学習教材やプリントの取り組み状況等で評価する。			

教科名	地理歴史	科目名	日本史探究	必履修・選択履修 及び類型	履修 すべての類型
単位数	3	履修学年	第3学年	授業形態	講義形式
授業目標	わが国の歴史の展開を諸資料（考古学上の資料や文献史料など）に基づいて学ぶとともに、地理的条件や世界の歴史との関連性などを認識しながらわが国の社会や伝統、文化の特色を学びます。				
授業内容	1 学期 ・古代社会の成立を、中国や朝鮮半島などの東アジア世界の歴史と関連づけて学びます。 ・王朝国家体制や荘園公領体制の中から武士が台頭し、しだいに社会的な地位を高め、平氏政権や鎌倉幕府を樹立する過程を学びます。	2 学期 ・近世国家が、荘園公領体制を一掃し、朝廷・大寺社を統制したという点に特色があることを認識し、鎖国体制についてアジアやヨーロッパ世界の動向と関連づけて学びます。 ・開国と幕府の滅亡、明治国家の成立について、欧米列強のアジア進出と関連づけて学びます。	3 学期 ・明治初期の改革が、士族反乱、農民反乱を伴いながら断行され、中央集権体制としての地歩を築く過程を学びます。 ・対外戦争である日清戦争や、ヨーロッパ列強の一つであるロシアと戦った日露戦争について、国際社会の動向をふまえた視点から学びます。		
教材及び必要経費等	教科書及び副教材を使用する。 プリントを多用するため、プリントを綴じるファイルを使用する。				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	日本史を理解するために必要な基礎的知識を身に付けている。日本史の理解に役立つ情報を自ら選択して活用し、歴史事象を追究する方法を身につけている。そして、考察した過程や結果を適切な方法で表現している。			
	思考・判断・表現	日本史の知識を踏まえ、現代世界の課題を歴史的視点から多面的・多角的に考察しようとしている。			
	主体的に学習に取り組む態度	日本史の大きな枠組みと流れに関心と問題意識を高めている。主体的・意欲的に課題を追求しようとしている。			
	以上の項目について次の①～③を用いて評価します。 ①定期考査（中間考査・期末考査など） ②提出物（副教材・プリント・その他） ③授業態度				

教科名	地理歴史	科目名	世界史探究	必修修・選択履修 及び類型	選択履修 アカデミック類型
単位数	2	履修学年	第3学年	授業形態	講義形式
授業目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される世界市民としての自覚、我が国の歴史に対する省察、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				
授業内容	1学期 1. 世界史へのまなざし 2. 諸地域の歴史的特質の形成 ・諸地域の歴史的特質への問い ・古代文明の歴史的特質 ・諸地域の歴史的特質 3. 諸地域の交流・再編 ・諸地域の交流・再編への問い	2学期 3. 諸地域の交流・再編 ・結び付くユーラシア諸地域 ・アジア諸地域とヨーロッパの再編 4. 諸地域の結合・変容 ・諸地域の結合・変容への問い ・世界市場の形成と諸地域の結合 ・帝国主義とナショナリズムの高揚	3学期 4. 諸地域の結合・変容 ・第二次世界大戦と諸地域の変容 5. 地球世界の課題 ・国際機構の形成と平和への模索 ・経済のグローバル化と格差の是正 ・科学技術の高度化と知識基盤社会 ・地球世界の課題の研究		
教材及び必要経費等	教科書・副教材ともに使用する。				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。			
	思考・判断・表現	地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。			
	主体的に学習に取り組む態度	地理や歴史に関わる諸事象について、社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。			

教科名	公民	科目名	政治・経済	必履修・選択履修 及び類型	履修 スタンダード類型
単位数	2	履修学年	第3学年	授業形態	講義形式
授業目標	<p>広い視野に立って、民主主義の成り立ちを理解し、民主主義の本質に関する理解を深める。また現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解するとともに、それらに関する諸問題について主体的に考え、公正な判断力を養う。</p> <p>さらに主権者としての立場を理解し、納税者、消費者として正しい知識を身に付け、社会にとって、望ましい人間形成に繋げる。</p>				
授業内容	1 学期 日本国憲法における基本的人権の尊重、国民主権、平和主義、天皇・国会・内閣・裁判所などの政治機構を概観し、それらの意義や機能について学習する。	2 学期 国際社会の変遷、人権、国家主権、領土などに関する国際法の意義、安全保障について学ぶとともに、国際連合をはじめとする国際機構の役割などについて学習する。	3 学期 経済活動の意義、国民経済における経済主体の役割、市場経済の機能と限界、財政のしくみと働きなどを学習し、現代経済の特質を理解する。また現代の政治や経済の諸問題について学ぶ。		
教材及び必要経費等	教科書及び副教材を使用する。 プリントを多用するため、プリントを綴じるファイルを用意する。				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	現代の政治的・経済的動きに対して関心と問題意識を高めている。主体的かつ意欲的に課題を追究しようとしている。			
	思考・判断・表現	政治・経済の知識を踏まえ、現代社会の諸課題を政治・経済的視点から多面的・多角的に考察しようとしている。 事実の確認を通じて、社会・世界の情勢についての核心を常に更新して、理解を深め、広げる姿勢に目を向ける。			
	主体的に学習に取り組む態度	政治・経済の理解に役立つ情報を自ら選択して活用し、政治・経済的事象を追究する方法を身に付けている。そして、考察した過程や結果を適切な方法で表現している。			
	以上の観点を踏まえ、定期考査の他、提出物や学習態度などを総合的に評価して成績をつけます。				

教科名	公民	科目名	政治・経済	必履修・選択履修 及び類型	選択履修 アカデミック類型
単位数	2	履修学年	第3学年	授業形態	講義形式
授業目標	<p>広い視野に立って、民主主義の成り立ちを理解し、民主主義の本質に関する理解を深める。また現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解するとともに、それらに関する諸問題について主体的に考え、公正な判断力の習得を図る。</p> <p>さらに主権者としての立場を理解し、納税者、消費者として正しい知識を身に付け、社会にとって、望ましい人間形成に繋げる。</p>				
授業内容	1 学期 日本国憲法における基本的人権の尊重、国民主権、平和主義、天皇・国会・内閣・裁判所などの政治機構を概観し、それらの意義や機能について学習する。	2 学期 国際社会の変遷、人権、国家主権、領土などに関する国際法の意義、安全保障について学ぶとともに、国際連合をはじめとする国際機構の役割などについて学習する。	3 学期 経済活動の意義、国民経済における経済主体の役割、市場経済の機能と限界、財政のしくみと働きなどを学習し、現代経済の特質を理解する。また現代の政治や経済の諸問題について学ぶ。		
教材及び必要経費等	教科書及び副教材を使用する。 プリントを多用するため、プリントを綴じるファイルを用意する。				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	現代の政治的・経済的動きに対して関心と問題意識を高めている。主体的意欲的に課題を探究しようとしている。			
	思考・判断・表現	政治・経済の基礎知識を踏まえ、現代社会の諸課題を政治・経済的視点から多面的・多角的に考察しようとしている。 生起する事象の背景・展開・影響なども含めて、包括的に事実と事実の関係性をたどる視点を重視したい。			
	主体的に学習に取り組む態度	政治・経済の理解に役立つ情報を自ら選択して活用し、政治・経済的事象を追究する方法を身に付けている。そして、考察した過程や結果を適切な方法で表現している。			
	以上の観点を踏まえ、定期考査の他、提出物や学習態度などを総合的に評価して成績をつけます。				

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ	必履修・選択履修 及び類型	履修 アカデミック類型
単位数	2	履修学年	第3学年	授業形態	講義形式
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 数学Ⅰに続く内容を学習し、基礎的な知識や技能の習得を目指す。 ● 数学的な考え方を育み、応用力を身につける。 				
授業内容	1学期 三角関数 ・ 三角関数とそのグラフ ・ 基本的な性質	2学期 微分・積分の考え ・ 微分係数と導関数 ・ 導関数の応用	3学期 微分・積分の考え（続き） ・ 不定積分と定積分 ・ 面積		
教材及び 必要経費 等	教科書 使用する 副教材 使用する その他、適宜補助的に作成したプリント等を使用する。				
観点別学習状況・ 評価規準及び 評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	数学における基本的な概念、用語・記号などを理解し、知識を身につけることができる。 計算の技能を身につけることができる。			
	思考・判断・表現	数学的活動を通して数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えることができる。			
	主体的に学習に 取り組む態度	前向きな姿勢で授業や学習に取り組むことができる。			
	<p>以上の項目について次の①～③を用いて評価します。</p> <p>①定期テスト（中間テスト・期末テスト・宿題テスト） ②提出物（副教材・その他） ③授業態度</p> <p>[ただし、③の項目において、極端に意欲が低く単位修得の意志が見られない（課題を一度も出さない、授業中つねに寝ている、補習に参加しない、など）場合は、定期テストで点数が取れていても単位が不認定となることもあり得るので注意すること。]</p>				

教科名	数学	科目名	教養数学	必履修・選択履修 及び類型	履修 スタンダード類型
単位数	3	履修学年	第3学年	授業形態	講義及び演習形式
授業目標	<p>●社会に出てから困らないように、教養とされる基礎的な数学の内容を徹底的に習得する。</p> <p>●実践的な数学の問題を通じて、理解不足な点を補う。</p> <p>●反復練習をすることにより、計算の技能を定着する。</p>				
授業内容	1学期 ・2桁・3桁の四則計算（筆算）の練習 ・小数を含む四則計算の練習 ・分数の四則計算の練習	2学期 ・割合（百分率など）、単位の換算などについての理解と計算技能の習得 ・速度、濃度、面積・体積の計算などについての理解と計算技能の習得	3学期 ・1次方程式の解法の習得など		
教材及び必要経費等	副教材：「割合はかせ」「速さはかせ」 ノート：使用しない 授業では独自に作成したプリントを使用する。				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	数学における基本的な概念、用語・記号などを理解し、知識を身につけることができる。 計算の技能を身につけることができる。			
	思考・判断・表現	数学的活動を通して数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えることができる。			
	主体的に学習に取り組む態度	前向きな姿勢で授業や学習に取り組むことができる。			
	<p>以上の項目について次の①～③を用いて評価します。</p> <p>①定期テスト（中間テスト・期末テスト・宿題テスト）</p> <p>②提出物（副教材・プリント・その他）</p> <p>③授業態度</p> <p>[ただし、③の項目において、極端に意欲が低く単位修得の意志が見られない（課題を一度も出さない、授業中つねに寝ている、補習に参加しない、など）場合は、定期テストで点数が取れていても単位が不認定となることもあり得るので注意すること。]</p> <p>④小テスト（授業プリント2枚ごとに実施）</p>				

教科名	数学	科目名	教養数学	必履修・選択履修 及び類型	履修 アカデミック類型
単位数	2	履修学年	第3学年	授業形態	講義及び演習形式
授業目標	<p>●社会に出てから困らないように、教養とされる基礎的な数学の内容を徹底的に習得する。</p> <p>●実践的な数学の問題を通じて、理解不足な点を補う。</p> <p>●反復練習をすることにより、計算の技能を定着する。</p>				
授業内容	1学期 ・2桁・3桁の四則計算（筆算）の練習 ・小数を含む四則計算の練習 ・分数の四則計算の練習	2学期 ・割合（百分率など）、単位の換算などについての理解と計算技能の習得 ・速度、濃度、面積・体積の計算などについての理解と計算技能の習得	3学期 ・1次方程式の解法の習得など		
教材及び必要経費等	副教材：「割合はかせ」「速さはかせ」 ノート：使用しない 授業では独自に作成したプリントを使用する。				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	数学における基本的な概念、用語・記号などを理解し、知識を身につけることができる。 計算の技能を身につけることができる。			
	思考・判断・表現	数学的活動を通して数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えることができる。			
	主体的に学習に取り組む態度	前向きな姿勢で授業や学習に取り組むことができる。			
	以上の項目について次の①～③を用いて評価します。 ①定期テスト（中間テスト・期末テスト・宿題テスト） ②提出物（副教材・プリント・その他） ③授業態度 [ただし、③の項目において、極端に意欲が低く単位修得の意志が見られない（課題を一度も出さない、授業中つねに寝ている、補習に参加しない、など）場合は、定期テストで点数が取れていても単位が不認定となることもあり得るので注意すること。] ④小テスト（授業プリント2枚ごとに実施）				

教科名	理科	科目名	物理基礎	必履修・選択履修 及び類型	選択必履修 スタンダード類型
単位数	2	履修学年	第3学年	授業形態	講義および実験実習
授業目標	<p>1. 物体の運動と物体にはたらく力との関係を理解し、あらゆる物体の運動が基本的な法則に基づいていることを理解する。また、仕事とエネルギーの関係を理解し、さまざまなエネルギーが相互に変換される仕組みについて理解する。</p> <p>2. 波の基本的な性質を学び、波動現象の法則性を理解する。身近な波動現象に関して理解する。</p> <p>3. 物理学と日常生活や社会とのかかわりを考えることができるようになる。</p>				
授業内容	1 学期 (1) 運動とエネルギー ア. 物体の運動 イ. 力と運動の法則 ウ. 仕事と力学的エネルギー		2 学期 (2) 熱 ア. 熱とエネルギー (3) 波動 ア. 波の性質 イ. 音波		3 学期 (4) 電気 (5) 物理学が拓く世界
教材及び 必要経費 等	教科書：使用する 問題集：使用する				
観点別学習状況・ 評価規準及び 評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	<p>観察や実験を通して、さまざまな自然現象の背景には原理や法則があることを理解できたか。また、自然現象を定量的に考察するため、物理量（概念）を定義し、利用することが理解できたか。（評価規準）</p> <p>実験レポート・定期考査の知識、理解に関する問題などを用いて評価する。（評価方法）</p>			
	思考・判断・表現	<p>観察や実験の技能を修得できたか。それらを通して科学的に探究する方法を習得できたか。課題やレポートにおいて、的確に表現する方法を習得しているか。（評価規準）</p> <p>レポート・定期考査の観察、実験に関する問題・課題プリントへの取り組み・ノート作成状況などを用いて評価する。（評価方法）</p>			
	主体的に学習に取り組む態度	<p>自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもって実験に参加しようとしているか。（評価規準）</p> <p>実験レポートと夏期休暇などの自由課題などを用いて評価する。（評価方法）</p>			

教科名	理科	科目名	物理	必履修・選択履修 及び類型	選択履修 アカデミック類型
単位数	4	履修学年	第3学年	授業形態	講義および実験実習
授業目標	1. 物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育む。 2. 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育む。				
授業内容	1 学期 (1)運動とエネルギー ア. 平面運動と放物線運動 イ. 剛体のつりあい ウ. 運動量の保存 エ. 円運動と単振動 オ. 気体の性質と分子の運動 カ. 運動とエネルギーに関する探究活動		2 学期 (2)波動 ア. 波の性質 イ. 音波 ウ. 光波 エ. 波動に関する探究活動 (3)電気と磁気 ア. 電場と電位 イ. 電流 ウ. 電流と磁場 エ. 電磁誘導と交流 オ. 電気と磁気に関する探究活動		3 学期 (4)原子 ア. 電子と光 イ. 原子と電子核 ウ. 原子に関する探究活動 エ. 物理学が築く未来
教材及び 必要経費 等	教科書：使用する 問題集：使用する				
観点別学習状況・ 評価規準及び 評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	観察や実験を通して、さまざまな自然現象の背景には原理や法則があることを理解できたか。また、自然現象を定量的に考察するため、物理量（概念）を定義し、利用することが理解できたかを、実験レポート・定期考査の知識、理解に関する問題などを用いて評価する。			
	思考・判断・表現	観察や実験の技能を修得できたか。それらを通して科学的に探究する方法を習得できたか。課題や実験のレポートにおいて、的確に表現する方法を習得しているかを、実験レポート・定期考査の観察、実験に関する問題・課題プリントへの取り組み・ノートの作成状況などを用いて評価する。			
	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもって実験に参加しているかを、実験レポートと夏期休暇などの自由課題などを用いて評価する。			

教科名	理科	科目名	化学	必修修・選択履修 及び類型	選択履修 アカデミック類型
単位数	4	履修学年	第3学年	授業形態	講義および実験実習
授業目標	1. 化学基礎で学んだ内容を深める。 2. 日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高める。 3. 化学反応の仕組みを具体的な反応を通して理解する。 4. 物質の性質や反応を理解することを通してその利用や役割を考える。 5. 理解しにくい内容でも、最後まで根気強く取り組む姿勢を身につける。				
授業内容	1 学期 (1) 物質の状態と平衡 ア. 物質の状態とその変化 イ. 溶液と平衡 (2) 物質の変化と平衡 ア. 化学反応とエネルギー イ. 化学反応と化学平衡		2 学期 (3) 無機物質の性質と利用 (4) 有機物質の性質と利用		3 学期 (5) 高分子化合物の性質と利用
教材及び 必要経費 等	教科書：使用する 問題集：使用する				
観点別学習状況・ 評価規準及び 評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	実験等を通して自然の事物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているかを、実験レポート・定期考査の知識、理解に関する問題などを用いて評価する。			
	思考・判断・表現	実験の方法を理解し、実験器具の正しい使い方を身に付けたか。自然界の事物現象について科学的に探究する方法を身に付けたか。自らの考えを的確に表現することができたかを、実験レポート・定期考査の観察、実験に関する問題・課題プリントへの取り組み・ノートの作成状況などを用いて評価する。			
	主体的に学習に 取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもって実験に参加しているかを、実験レポートと夏期休暇などの自由課題などを用いて評価する。			

教科名	理科	科目名	生物基礎	必履修・選択履修 及び類型	必履修 スタンダード類型
単位数	2	履修学年	第3学年	授業形態	講義及び実験
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生物に関する様々な基礎的知識を習得するとともに、日常生活や社会との関連性を理解する。 ・授業で学んだ知識を活用する力を養う。 ・観察や実験、グループ（またはペア）による対話を通して、遺伝や体内環境の維持、多様性と生態系についての探究を行う。 				
授業内容	1 学期 第1章 生物の特徴 第1節 生物にみられる多様性と共通性 1. 2. 生物の共通性の由来 3. 細胞構造の共通性と多様性 4. 真核細胞の構造 第2節 細胞とエネルギー 1. 代謝と酵素 2. エネルギーとATP 3. 光合成 4. 呼吸 5. ミトコンドリアと葉緑体の起源 第2章 遺伝子とその働き 第1節 遺伝子とDNA 1. 遺伝子・染色体・DNA 2. DNAの構造 3. DNAの複製と分配		2 学期 第2節 遺伝子の働き 1. タンパク質の構造と働き 2. 遺伝子の発現とタンパク質合成 3. 細胞と遺伝子の働き 第3章 体内環境と恒常性 第1節 生物の内部環境 1. 体液とその働き 2. 心臓の構造と体液の循環 3. 赤血球と血小板の働き 4. 5. 体液濃度の調節 第2節 体内環境を維持するしくみ 1. 体内環境の調節のしくみ 2. 自律神経系の働き 3. ホルモンによる体内環境の維持 4. 血糖濃度の調節 5. 体温の調節		3 学期 第3節 生体防御 1. 生体防御 2. 自然免疫 3. 獲得免疫 4. 免疫と医療 第4章 植生の多様性と生態系 第1節 植生と遷移 1. 植物と環境 2. さまざまな植生 3. 4. 植生の遷移
教材及び必要経費等	教科書：使用する 問題集：使用する				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	実験等を通して自然の事物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。（評価規準） 実験レポート・定期考査の知識、理解に関する問題などを用いて評価する。（評価方法）			
	思考・判断・表現	実験の方法を理解し、実験器具の正しい使い方を身に付けたか。自然界の事物現象について科学的に探究する方法を身に付けたか。自らの考えを的確に表現することができたか。（評価規準） 実験レポート・定期考査の観察、実験に関する問題・課題プリントへの取り組み・ノートの作成状況などを用いて評価する。（評価方法）			
	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもって実験に参加しようとしているか。（評価規準） 実験レポートと夏期休暇などの自由課題などを用いて評価する。（評価方法）			

教科名	理科	科目名	生物	必履修・選択履修 及び類型	選択履修 アカデミック類型
単位数	4	履修学年	第3学年	授業形態	講義および実験実習
授業目標	1. 生物や生物現象に対する探究心を高める。 2. 生物学的に探究する。 3. 生物学の学習を通して科学的な自然観を育む。 4. 理解しにくい内容でも、最後まで根気強く取り組む態度を身につける。				
授業内容	1 学期 ・生命現象と物質 生命現象を支える物質 (タンパク質や拡散など) の働きを理解し、生命現象 を分子レベルでとらえる。 ・生殖と発生 生物の生殖や発生について、 動物と植物の配偶子形成から 形態形成までの仕組みを理解する。		2 学期 ・生物の環境応答 環境の変化を生物個体が 感知し、それに反応する 仕組みを理解する。 ・生態と環境 生物の個体群と群集及び 生態系について、それらの 構造や変化の仕組みを 理解し、生態系のバランス や生物多様性の重要性 について認識する。		3 学期 ・生物の進化と系統 生物の進化の過程とその仕 組み及び生物の系統について 探究し、生物界の多様性 と系統を理解し、進化につ いての考え方を身に付ける。 ・生物の進化と系統に関する 探究活動
教材及び 必要経費 等	教科書：使用する 問題集：使用する				
観点別学習状況・ 評価規準及び 評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	実験等を通して自然の事物現象についての基本的な概念や原理・ 法則を理解し、知識を身に付けているかを、実験レポート・定期 考査の知識、理解に関する問題などを用いて評価する。			
	思考・判断・表現	実験の方法を理解し、実験器具の正しい使い方を身に付けたか。 自然界の事物現象について科学的に探究する方法を身に付けた か。自らの考えを的確に表現することができたかを、実験レポー ト・定期考査の観察、実験に関する問題・課題プリントへの取り 組み・ノートの作成状況などを用いて評価する。			
	主体的に学習に 取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもって実験に参加 しているかを、実験レポートと夏期休暇などの自由課題などを用 いて評価する。			

教科名	理科	科目名	地学基礎	必履修・選択履修 及び類型	選択必履修 スタンダード類型
単位数	2	履修学年	第3学年	授業形態	講義および実験実習
授業目標	1. 日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てる 2. 地学の基本的な概念や原理・法則を理解する 3. 地学分野の内容を通して科学的な見方や考え方を養う				
授業内容	1 学期 (1) 宇宙と地球 ア. 宇宙と太陽の誕生 イ. 太陽系と地球の誕生 (2) 地球のすがた ア. 地球の概観 イ. プレートの運動		2 学期 (3) 地球の活動 ア. 地震 イ. 火山活動 ウ. 探求活動 (4) 大気と海洋 ア. 地球のエネルギー収支 イ. 大気と海水の運動		3 学期 (5) 生物の変遷 ア. 地層と化石 イ. 地球と生物の変遷 (6) 地球の環境 ア. 地球環境の科学 イ. 日本の自然環境 ウ. 探究活動
教材及び 必要経費 等	教科書：使用する 問題集：使用する				
観点別 学習状況・ 評価規 準及び 評価方 法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	実験等を通して自然の事物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。(評価規準) 実験レポート・定期考査の知識、理解に関する問題などを用いて評価する。(評価方法)			
	思考・判断・表現	実験の方法を理解し、実験器具の正しい使い方を身に付けたか。自然界の事物現象について科学的に探究する方法を身に付けたか。自らの考えを的確に表現することができたか。(評価規準) 実験レポート・定期考査の観察、実験に関する問題・課題プリントへの取り組み・ノートの作成状況などを用いて評価する。(評価方法)			
	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもって実験に参加しようとしているか。(評価規準) 実験レポートと夏期休暇などの自由課題などを用いて評価する。(評価方法)			

教科名	保健体育	科目名	体育	必履修・選択履修 及び類型	必履修 すべての類型
単位数	3	履修学年	第3学年	授業形態	実技形式・講義形式
授業目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。</p>				
授業内容	<p>1学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・陸上競技 球技 武道 上記から1種目選択 ・体づくり運動 ・体育理論 	<p>2学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・球技 2種目選択 ・体づくり運動 ・体育理論 	<p>3学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・器械運動 球技 ダンス 上記から1種目選択 ・体づくり運動 		
教材及び 必要経費 等	<p>学校指定の体操服、体育館シューズ 教科書：現代高等保健体育(大修館) 副読本：保健体育ノート(大修館)</p>				
観点別学習状況・ 評価規準及び 評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	<p>運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。</p>			
	思考・判断・表現	<p>自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。</p>			
	主体的に学習に 取り組む態度	<p>運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。</p>			
	上記の規準で、授業態度・課題の取組状況や内容、提出状況・発問に対する回答・で評価する。				

教科名	芸術	科目名	音楽Ⅲ	必履修・選択履修 及び類型	選択履修 スタンダード類型
単位数	2	履修学年	第3学年	授業形態	講義及び実習形式
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ●音楽を愛好し、演奏者として意欲的、主体的に音楽活動を行おうとする。 ●幅広い音楽活動に必要な知識と技術を更に高める。 ●演奏者（パフォーマー）としての自分に自信を持つことができる。 ●さまざまなジャンルの音楽文化を尊重する態度を育む。 				
授業内容	1 学期 ・楽典 ・器楽（ギター） ・歌唱 ・鑑賞		2 学期 ・楽典 ・器楽（キーボード） ・歌唱 ・鑑賞		3 学期 ・卒業演奏に向けて
教材及び 必要経費 等	・教科書 ・フラットファイル（音楽Ⅰ・Ⅱから引き続き使用） ・プリント等 ・キーボード（楽器レンタル代として約1,700円）				
観点別学習状況・ 評価規準及び 評価方法	観点別学習状況		評価規準及び評価方法		
	知識・技能		・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。		
	思考・判断・表現		・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚する。 ・音楽の要素の働きを感受しながら、どのように表すかについて表現意図をもち、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴き、自らも個性豊かな表現の工夫をし、創造することができている。		
	主体的に学習に 取り組む態度		・音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に意欲的に取り組み、その良さや美しさなどを自らの言葉で他者に伝えることができるか。		
	・評価は、学習の取り組み状況、実技課題の進捗、学習プリント（学習・鑑賞）、授業態度、を総合的に判断して決定します。				

教科名	芸術	科目名	美術Ⅲ	必履修・選択履修 及び類型	選択履修 スタンダード類型
単位数	2	履修学年	第3学年	授業形態	講義及び実習形式
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 制作や鑑賞など美術に親しむ活動を通して造形的な見方・考え方を働かせ、体験を通じて生活や社会の中の美術や美術の文化について理解を深めるとともに、芸術を愛する心を高める。 ● 制作技術を学びながら、主体的に自己表現する能力をみがく。 				
授業内容	1 学期 ・ 工芸（陶芸）		2 学期 ・ 立体表現 または平面表現		3 学期 ・ 課題研究
教材及び 必要経費 等	教科書：使用する ・ 実習教材費として2,000円程必要です ・ 個人購入の画材は2年から引き続いて使用				
観点別学習状況・ 評価規準及び 評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	表現を工夫して効果的な表現をしようとしている。 作品を幅広く理解し、見方を深めることができる。			
	思考・判断・表現	基本的な制作技術を習得し、目的や用途に即して、創意工夫した表現ができる。			
	主体的に学習に 取り組む態度	さまざまな美術作品・課題に関心を深め、積極的な態度で学習しようとしている。			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習活動に向かう姿勢(遅刻、忘れ物、など) ・ 学習活動への参加状況(制作への取組、道具の片付け、掃除、鑑賞の態度など) ・ 授業で提出する「作品」の評価 ・ 課題作品の制作時や授業終了後に提出する「振り返りシート」などの提出物の評価 ※実習科目なので授業を欠席せずに参加し、作品を制作、完成させることが大切です。				

教科名	芸術	科目名	書道Ⅲ	必履修・選択履修 及び類型	選択履修 スタンダード類型
単位数	2	履修学年	第3学年	授業形態	講義及び実習形式
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ●授業における表現と鑑賞の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育む。 ●書に親しむ活動を通して感性を高め、書の文化や伝統について理解を深める。 ●書写能力を育てながら、主体的に自己表現する能力を高める。 				
授業内容	1学期 篆書の学習 楷書の学習 ペン字の学習		2学期 楷書の学習 行書の学習 ペン字の学習		3学期 漢字仮名交じりの書 楷書、行書、草書等の創作
教材及び 必要経費 等	教科書：使用する 副教材：使用する 実習用具(紙・墨・筆等) 3,000円				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現や形式の多様性、作品・人物に対する正しい知識を持ち、その技能を習得している。 ・実生活に関わる書の在り方とその効果について、その意義を理解している。 			
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・古典や事象に対する知識を基にして、個性を活かしながら効果的な表現のための創意工夫をすることができる。 ・古典の持つ価値や暮らしの中での位置付けを考え、自らも創造することができる。 ・書表現のもたらす様々な効果と特性を把握し、制作にあたり適切に選択することができる。 			
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対し自ら改善点を見つけ、より良くしようと取り組むことができる。 ・自ら考え、また他者の考えを看取しながら協働して制作に取り組むことができる。 ・書の伝統を踏まえ、自ら主体的に発展継承させようとする事ができる。 			
	<ul style="list-style-type: none"> ●このため、評価は具体的には次のものを対象とする。 ・学習活動への参加状況(作成への取組、鑑賞の態度など、意欲的な態度で授業に参加することを大切にする)。 ・毎授業で提出する「作品」の評価。 				

教科名	芸術	科目名	教養芸術	必履修・選択履修 及び類型	選択履修 スタンダード類型
単位数	2	履修学年	第3学年	授業形態	実習形式
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術に関わる諸活動を通し、生涯にわたり、芸術を愛好する心を身に付ける。 ・音楽・美術・書道と横断的に学びを深めることにより、養われた感性を日常生活に活かし、生活をより豊かにする素養を養う。 ・古典や事象に対する基礎的な知識を身に付け、文化芸術を継承し発展させる心情を身に付ける。 				
授業内容	1 学期 ・オリエンテーション ・地域の美術（伊勢型紙） ・伝統行事に関わる音楽 ・鈴鹿墨を用いた書の創作	2 学期 ・地域の焼きもの ・和楽器（箏） ・生活を彩る書作品の創作	3 学期 ・生活の中の美術 ・生活の中の音楽 ・実生活に活かす書		
教材及び 必要経費 等	<ul style="list-style-type: none"> ・実習費として3,000円を徴収する。 ・適宜必要に応じてワークシートを用いる。 				
観点別学習状況・ 評価規準及び 評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・古典や事象に備わる技法、及びその効用について正しく理解し、その技能を習得している。 ・あらゆる芸術に備わる歴史的背景や用語について理解し、その美を実生活に活かすことができる。 			
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対し自ら改善・解決の方法を探し、よりよい表現を模索することができる。 ・習得した知識活かし、個性や意図を調和させながら創作に活かすことができる。 ・用具・用材を適切に用いて制作・表現することができる。 			
	主体的に学習に 取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を見つけ、改善に向かうことができる。 ・鑑賞・発表などを中心とした相互理解を通して他者の感性や意図を感受し、受け入れることができる。 			
	以上を踏まえ、各授業における提出物や発表・学びに向かう姿勢等を基として総合的に判断する。				

教科名	外国語	科目名	論理・表現 I	必履修・選択履修 及び類型	履修 すべての類型
単位数	3	履修学年	第3学年	授業形態	講義及び演習
授業目標	<p>●「話すこと(やり取り)」、「話すこと(発表)」及び「書くこと」を中心とした発信能力の育成を強化する。</p> <p>●スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、一つの段落を書くなどを通して、論理の構成や展開を工夫して、話したり書いたりして伝える又は伝え合うことなどができるようになる。</p>				
授業内容	<p>1 学期</p> <p>○単語・表現・熟語の学習</p> <p>○文法の学習</p> <p>○単語の小テスト</p> <p>○スピーチの段落の書き方の技術</p> <p>○テーマに沿ったスピーチのライティング</p>	<p>2 学期</p> <p>○単語・表現・熟語の学習</p> <p>○文法の学習</p> <p>○単語の小テスト</p> <p>○スピーチに関わる技術や非言語コミュニケーションの学習</p> <p>○ペア・グループでのスピーチ発表</p>	<p>3 学期</p> <p>○単語・表現・熟語の学習</p> <p>○文法の学習</p> <p>○単語の小テスト</p> <p>○スピーチに関わる技術や非言語コミュニケーションの学習</p> <p>○ペア・グループでのスピーチ発表</p>		
教材及び必要経費等	教科書 使用する				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	スピーチのライティング及びスピーキングに必要な基本的な語句、表現、熟語が身につけていること。論理的な文章を書いたり話したりするための手順などの技術が身につけていること。また学期毎のライティングおよびスピーキングの出来映え。以上を小テスト、ライティング課題、スピーキング課題、提出物や定期考査などで評価をする。			
	思考・判断・表現	日常的な話題や社会的な話題についてのスピーチのテーマに沿って、読み手や聞き手に配慮しながら適切に英語で表現したり伝え合ったりできていること。以上を小テスト、ライティング課題、スピーキング課題や定期考査などで評価をする。			
	主体的に学習に取り組む態度	各学期に課されたライティング課題やスピーキング課題に対して積極的に取り組んでいるかどうか、またクラスメイトや教員からのアドバイスを受けて、より良い出来映えを目指して課題を修正し取り組もうとしているかを評価する。以上を継続した課題の取り組み方を見て評価する。			

教科名	英語	科目名	総合英語Ⅱ	必履修・選択履修 及び類型	履修 アカデミック類型
単位数	3	履修学年	第3学年	授業形態	講義及び演習
授業目標	<p>●聞いたり読んだりしたことの概要や要点を目的に応じて捉える</p> <p>●「話すこと(やり取り)」、「話すこと(発表)」及び「書くこと」を中心とした発信能力の育成をさらに強化する。</p> <p>●一定の支援を活用することで、多様な語句や文を使って情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやりとりを続けられる。</p> <p>●一定の支援を活用することで、多様な語句や文を使って論理性に注意して話したり書いたりして伝える又は伝え合うことなどができるようになる。</p>				
授業内容	<p>1 学期</p> <p>○日常的及び社会的な話題の英語の読解</p> <p>○日常的及び社会的な話題のリスニング</p> <p>○読んだ文章に関する要約や感想文、スピーチ、プレゼンテーション</p>	<p>2 学期</p> <p>○時事問題や身近な話題の英語の読解</p> <p>○様々な場面のリスニング</p> <p>○読んだ文章に関する要約や感想文、スピーチ、プレゼンテーション</p>	<p>3 学期</p> <p>○時事問題や身近な話題の英語の読解</p> <p>○様々な場面のリスニング</p> <p>○読んだ文章に関する要約や感想文、スピーチ、プレゼンテーション</p>		
教材及び 必要経費 等	<p>問題集 (学校指定のもの)</p> <p>単語帳 (学校指定のもの)</p> <p>辞書 (学校指定のもの)</p>				
観点別学習状況・ 評価規準及び 評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	時事問題を含めた日常的及び社会的な話題について、4 技能を総合的に活用し学習、表現するための発展的な単語、表現、熟語、文章の論理性、聞き取る力や話す力を身につけていること。以上を小テスト、ライティング課題、スピーキング課題、提出物や定期考査などで評価をする。			
	思考・判断・表現	日常的な話題や社会的な話題についてのスピーチのテーマに沿って、使用する語句やジェスチャーなどについて読み手や聞き手に深く配慮しながら適切に英語で表現したり伝え合ったりできていること。以上を小テスト、ライティング課題、スピーキング課題や定期考査などで評価をする。			
	主体的に学習に 取り組む態度	各学期に課されたライティング課題やスピーキング課題に対して積極的に取り組んでいるかどうか、またクラスメイトや教員からのアドバイスを受けて、より良い出来映えを目指して課題を修正し取り組もうとしていること。また、与えられたモデルを参考に主体的、自律的に英語を用いて、表現をしようとしていること。以上を継続した様々な課題の取り組み方を見て評価する。			

教科名	家庭	科目名	家庭総合	必履修・選択履修 及び類型	必履修 スタンダード類型
単位数	2	履修学年	第3学年	授業形態	講義及び実習形式
授業目標	1. 家族や家庭生活のあり方、高齢者の生活、衣食住等について関心を高め、理解する。 2. 人の一生を生涯発達という視点でとらえ、男女がともにつくる家庭・社会について考察できる力をつける。 3. 衣食住等に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につける。				
授業内容	1学期 高齢者とかかわる ・高齢社会に生きる ・高齢者をする 快適な住生活をつくろう ・健康で安全な住生活をつくろう ・よりよい住生活をめざして	2学期 生涯の健康を見通した食生活をつくろう② 五大栄養素の働きと食品 調味料・香辛料・嗜好品・加工食品 食品の選択と取り扱い 食の安全・安心を考える 何をどれだけ食べればよいか 献立と調理	3学期 消費生活を考えよう② ひとりの消費者として選択する力 社会の一員としての消費者		
教材及び必要経費等	教科書：使用する 副教材：使用する 実習（被服）（食物）材料費を徴収します（予定）				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	人間の発達と生活の営みとのかかわり、家庭・家族の意義、家庭生活の各分野に関する基礎的・基本的知識を断片的ではなく実際の生活の充実向上役立つように総合的に理解しているか。また、被服・食物分野における基礎的・基本的技術を学び生活の中で総合的に理解し活用する姿勢を培う。発問に対する回答や発表の内容、ノートやプリントへの取り組み、定期考査などより評価する。			
	思考・判断・表現	衣食住の生活、家族・家庭、消費生活などの家庭や地域の生活について見直して課題を見つけその解決を目指し学んだ知識・技能を活用する。発問に対する回答や発表の内容、ノートやプリントへの取り組み、定期考査などより評価する。			
	主体的に学習に取り組む態度	自分や家族・家庭、地域の生活、社会にかかわる課題を見つけることができるか、また課題解決のため思考を深め、工夫したり創造したりして自分の考えをまとめ、判断することができるかを発問に対する回答や発表の内容、ノートやプリントへの取り組み、定期考査などより評価する。			

教科名	家庭	科目名	服飾手芸	必履修・選択履修 及び類型	選択履修 スタンダード類型
単位数	2	履修学年	第3学年	授業形態	実習形式
授業目標	1. 手芸の技法の知識と技術を習得させ、創造的に製作する。 2. 地域の伝統文化にも関連付け服飾に活用する能力と態度を育てる。				
授業内容	1学期 ・地域文化や地域の特色について理解を深める。 ・基本的な技術を習得する。 ・ハーフパンツ作りおよび刺繍をする。	2学期 ・テーマ別に選択した作品を製作する。 ・作品のプレゼンテーションを行い問題解決学習から知識を深める。また、他者、他作品も評価し知識を広げる。	3学期 ・手芸鑑賞を行う。		
教材及び必要経費等	裁縫道具一式 教材費（5000円～7000円程度）				
観点別学習状況・評価規準及び評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	・基本的技術について机間巡視行い評価する。 ・製作作品を評価する。			
	思考・判断・表現	・毎時間の製作プリントの提出。 ・作品のプレゼンテーションを行い創意工夫点や改善点などを発表する。			
	主体的に学習に取り組む態度	・準備片付けを自ら考え行動する。 ・作品のプレゼンテーションを行い創意工夫点や改善点などを発表する。			

教科名	商業	科目名	課題研究 (商業)	必修修・選択履修 及び類型	選択履修・スタンダード類型
単位数	2	履修学年	第3学年	授業形態	講義及び実習形式
授業目標	商業に関する課題を設定し、その課題解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術を深めていくとともに、問題解決能力や自発的、創造的な学習態度を身に付ける。				
授業内容	1 学期 ・ 課題設定 ・ 課題に対して、調査研究や練習を行う。		2 学期 ・ 下記の課題のうち、設定した課題を元に行う。 ・ 調査、研究、練習 ・ 作品の制作 ・ 職業資格取得 ・ 発表資料作成		3 学期 ・ 成果発表
教材及び必要経費等	副教材・プリントなど				
評価の観点・評価規準及び評価方法	観 点	評 価 規 準 及 び 評 価 方 法			
	知識・技能	課題解決や目標達成に必要な知識を身につけるとともに、その内容を理解しているか。課題解決や目標達成に必要な技能を身につけるとともに、課題や目標の成果を適切に表現できているか。			
	思考・判断・表現	課題解決や目標達成に必要な情報の収集、計画の設定・改善および学習活動の工夫に関する思考や判断ができているか。			
	主体的に学習に取り組む態度	自らの進路と関連させて課題および目標の設定をしようとしているか。課題解決および目標達成に向けた方法を自ら工夫し、計画・実行・改善しようとする態度がみられるか。			

教科名	商業	科目名	情報処理	必履修・選択履修 及び類型	選択履修 スタンダード類型
単位数	2	履修学年	第3学年	授業形態	講義及び実習形式
授業目標	①文書がビジネス活動の中で果たしている役割を理解し、ワープロソフト利用に関する知識と技術を習得して、基本文書や応用文書を作成する。 ②表計算ソフトを活用するための基礎的・基本的な知識や技術を身に付けていく。 ③その他、コンピュータソフトを活用するための基礎的・基本的な知識や技術を身に付けていく。				
授業内容	1 学期 タイピング練習 ビジネス文書の作成 (応用文書の作成) パーソナルコンピュータ の応用的な操作方法	2 学期 表計算ソフトの応用的操 作練習 その他、コンピュータソ フトの応用的操作練習	3 学期 その他、コンピュータソフト の応用的操作練習 ビジネス情報の処理と分析		
教材及び 必要経費 等	教科書 使用する 副教材・プリントなどを使用する				
観点別 学習状況・ 評価規 準及び 評価方 法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ワープロの応用的な操作方法やタッチメソッドについて理解している。 ・表計算ソフトにおける数値・文字などのデータや、計算式の取り扱いを理解している。 ・学習したコンピュータソフトの操作方法を理解している。 			
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・社外文書、社交文書、取引文書、社内文書の作成方法を理解し、文書の作成に役立てることができる。 ・表計算ソフトの機能を用いて、問題を分析して、適切な表の形式や関数を選択し、問題解決に必要な表を作成することができる。 			
	主体的に学習に 取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ワープロの編集機能や効果的な文書の作成方法について、興味を持って実際に操作し、文字の入力、漢字変換、特殊な入力方法を習得しようとしている。 ・表計算ソフトを利用して、数値計算を簡単に行い、目的に応じた適切な表を積極的に作成しようとする。 			

科目名	総合的な探究の時間			必修修・選択履修 及び類型	必修修
単位数	1	履修学年	第3学年	授業形態	講義及び演習 実習形式(TT)
授業目標	<p>最高学年となり、広い視野をもって自分たちのあり方・生き方を見つめ、考え、実現していくことをねらいとする。漠然となりがちな生き方について、これまでの歩みを振り返るとともに、高校卒業後、本格的に社会へ出て行くことを見通して、これからの生き方を真剣に見つめ、考える。そして「キャリアガイダンス」を通じて、自分の将来設計のための活動を行う。人生をよりよく生きるために、自分自身を見つめること、他人を理解し思いやること、世の中のことをよく勉強することをバランスよく養っていく。自分や世の中の将来のことを考え、今この時をどうやって生きていけばよいのかを模索するとともに、環境・福祉・ボランティア・人権・社会問題などの視点も取り入れていく。また、自ら学び考える力や自己表現力を養い、豊かな人間性・社会性を培うこと、さらにそれを支える健康・体力の重要性の理解をめざす。</p>				
授業内容	1 学期 就職準備 (自分の適性と就職) (外部講師・面接項目チェック) (求人票の読み方) (履歴書の書き方) (志望企業チェック) 進学準備 (志望校選択の条件・比較1) (外部講演) (入学までに何をすべきか) (オープンキャンパススケジュール) (受験プランニング) (面接項目チェック) (面接の手順) 環境について考える		2 学期 就職準備 (作文・一般常識) (面接練習) 進学準備 (作文・小論文) (面接練習) 国際理解について(外部講師) 環境について考える 人権学習		3 学期 3年間をふりかえって 卒業後について 後輩へのメッセージ
教材及び 必要経費 等	教科書は使用しません。 課題に応じ、問題集等を利用。				
観点別学習状況・ 評価規準及び 評価方法	観点別学習状況	評価規準及び評価方法			
	知識・技能	自分の将来にかかわる様々な事象や課題について、基礎的・基本的な知識を身につけている。 自分の将来にかかわる様々な事象や課題について、収集した情報を効果的に活用している。			
	思考・判断・表現	自分が向き合うべき課題について、深く考え適切に判断し効果的に表現している。			
	主体的に学習に 取り組む態度	自分の将来にかかわる様々な事象や課題について、関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。			
	作文・体験・レポートなどを総合的に判断する。				